

平成元年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書
——労働安全衛生行政セミナー——

平成 2 年 2 月

国際協力事業団
東京国際研修センター

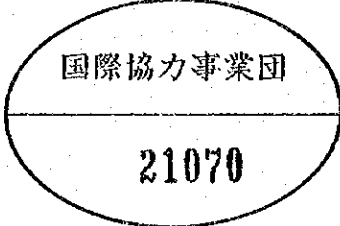
TITC
JR
90-31

LIBRARY

平成元年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書
——労働安全衛生行政セミナー——

平成 2 年 2 月

国際協力事業団
東京国際研修センター



は　じ　め　に

この報告書は国際協力事業団が実施した労働安全衛生行政セミナーに参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、帰国研修員の所属機関及び関連機関を訪問し、当該分野に関する技術指導、研修効果の確認、評価並びに本コースに関するニーズの調査等を目的にパプア・ニューギニア、マレーシア、シンガポールの3カ国に派遣した巡回指導班の調査報告書である。

本報告書において、当該分野における各国の実情、帰国研修員の活動状況及びコースの内容にかかる要望事項等を取りあげているところ、今後の研修実施にあたっての参考となれば幸いである。

本件の実施について、多大なご尽力を賜った外務省、労働省及び各在外公館その他関係各位に対し、感謝の意を表します。

平成2年2月

国際協力事業団東京国際研修センター

所　長　杉　山　亭　造

目 次

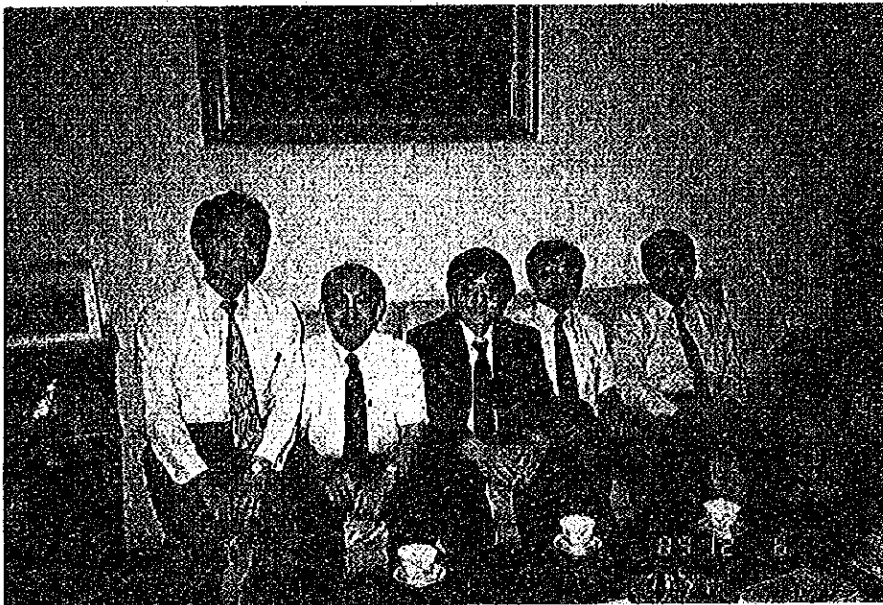
1. 巡回指導の概要	1
(1) 派遣の目的	1
(2) チーム構成	1
(3) 派遣国及び期間	1
(4) 日程（概要）	1
(5) 日程の詳細	2
(6) 調査方法	5
2. 労働安全衛生行政セミナーの概要と経緯	6
(1) 労働安全衛生行政セミナーの概要	6
(2) 平成元年度労働安全衛生行政セミナー日程	7
(3) 研修員受入の概要（表）	9
3. 各個別調査内容	11
3-1 はじめに	11
3-2 パプアニューギニア	12
(1) 産業事情等	12
(2) 労働雇用省訪問	12
(3) 帰国研修員との面談	14
3-3 マレーシア	14
(1) 産業事情等	14
(2) 労働省訪問	15
(3) 生産性本部訪問	17
(4) 工場視察	17
3-4 シンガポール	18
(1) 産業事情等	18
(2) 労働省訪問	18
(3) 工場視察	20
4. 調査結果のまとめ	22
4-1 面接調査のとりまとめ	22
(1) 帰国研修員の活動状況及び労働安全衛生行政セミナーに対する評価	22
(2) 今後の労働安全衛生行政セミナーに関する意見・要望	22

(3) 帰国研修員に対するフォローアップに関する意見・要望	23
4-2 アンケート調査のとりまとめ	23
(1) 調査表の内容	24
(2) 労務安全衛生行政セミナーフォローアップに係る質問表の結果(概要)	25
(3) 個別調査表(PNG 3、マレーシア 9、シンガポール12 計24)	26
5. 結 論	50
6. 特別講義の概要	51
(1) Current Topics on Industrial Safety and Health in Japan	51
(2) What Zero-Accident Campaign Aims at	71
資 料	
(1) パプアニューギニア関係機関への報告書	74
(2) マレーシア関係機関への報告書	77
(3) シンガポール関係機関への報告書	82
(4) 帰国研修員アンケート調査表	86
(5) パプアニューギニア労働雇用省組織図	90
(6) マレーシア総理府人事院組織図	91
(7) マレーシア労働省組織図	92
(8) マレーシア保健省組織図	93
(9) マレーシア生産性本部組織図	94
(10) シンガポール大蔵省組織図	95
(11) シンガポール労働省組織図	96
(12) List of Interviewed Persons (PNG)	97
(13) List of Attendants for Special Lectures (PNG)	98
(14) List of Ex-Participants (PNG)	99
(15) List of Interviewed Persons (Malaysia)	100
(16) List of Attendants for Special Lectures (Malaysia)	101
(17) List of Ex-Participants (Malaysia)	103
(18) List of Interviewed Persons (S' pore)	104
(19) List of Attendants for Special Lectures (S' pore)	105
(20) List of Ex-Participants (S' pore)	106
(21) 特別講義における団長挨拶文	107

1. 事務所長を囲んで



(1) パプアニューギニア岡崎所長（右端）とチーム（左から木下・荒川・下河原）



(2) マレーシア岡部所長（右端）、酒井職員（左端）とチーム



(3) シンガポール石崎所長 (左端)

2. 面接調査 (PNG)



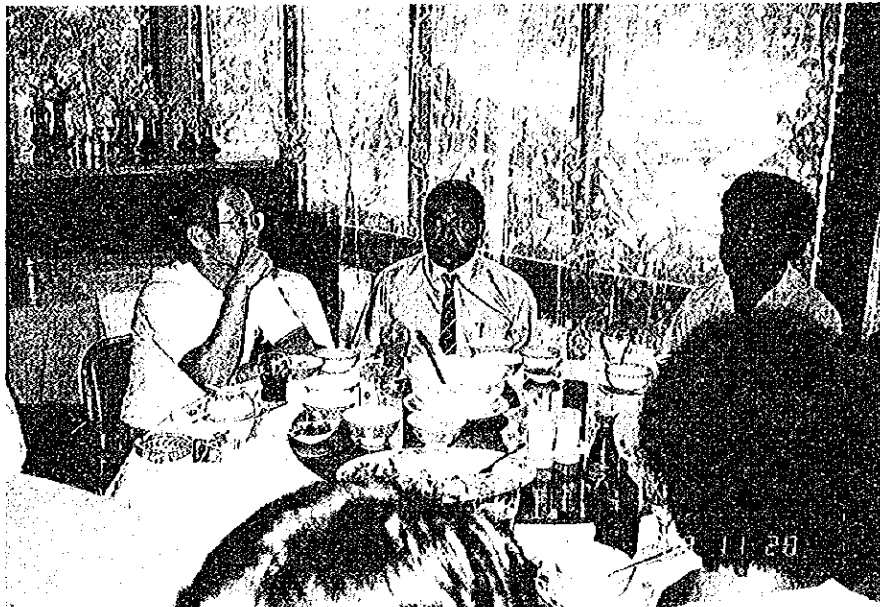
(1) Mr. Tanabi (次官補で帰国研修員)との面接



(2) Ms. Joel (真中) とその右Miss Baloiioiとの面接



(3) Mr. Silovo (左端) との面接

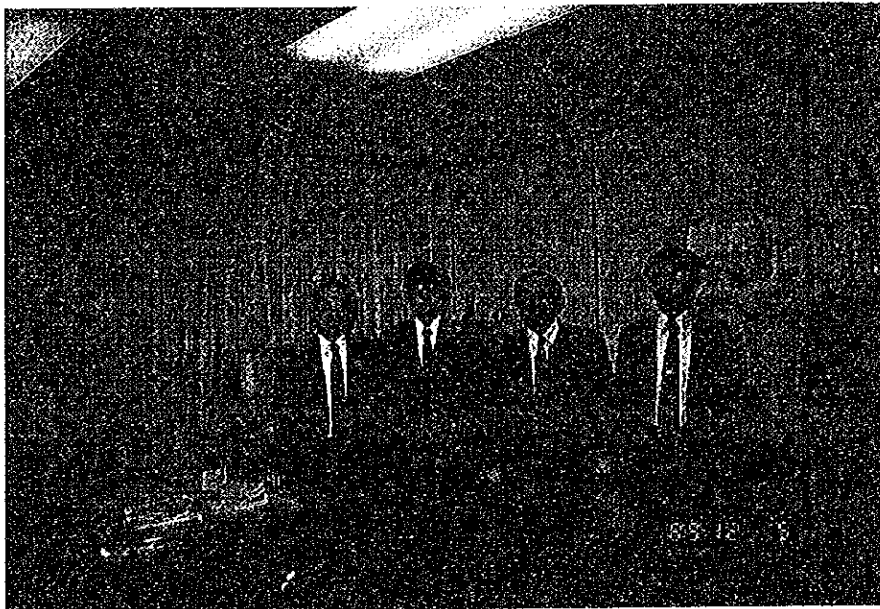


(4) 会食中のMr. Vaso (真中)

2-2 面接調査 (マレーシア)



(1) Mr. Azizanとの面接

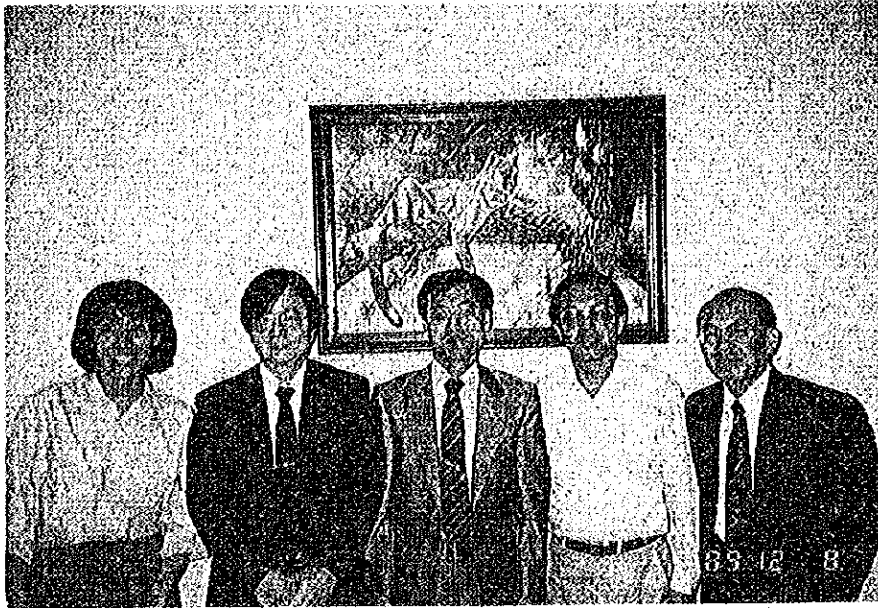


(2) Mr. Asnanとの面接



(3) Mr. Jalil (前列左から2人目) 及びMr. Harminder Singh
を囲んで帰国研修員との写真

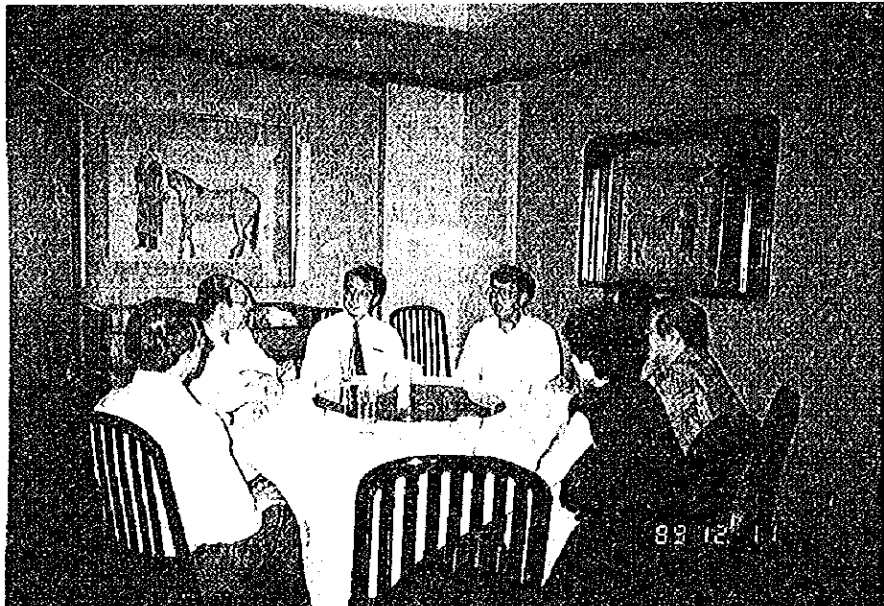
2. - 3 面接調査 (シンガポール)



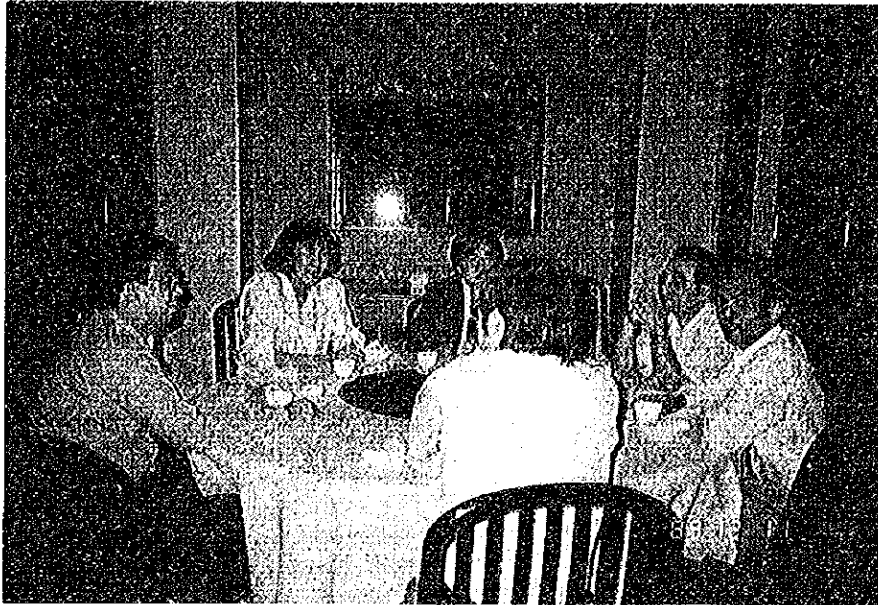
(1) Mr. Lee Kat Yan (左から2人目) とMs. Yip Geok Kongとチーム



(2) Mr. Harry Wong (真中) とMr. Choy Chan Pongとの会食



(3) Mr. Wong, Mr. Choy, Mr. Lee を交えて労働省幹部との会食

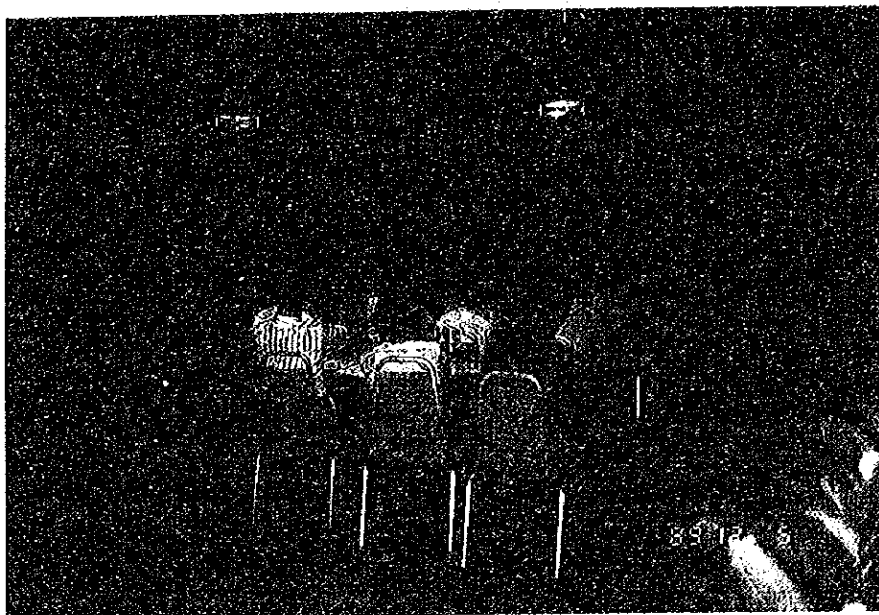


(4) Ms. Yop及び労働省幹部との会食

3-1 特別講義 (PNG)



3. - 2 特別講義 (マレーシア)



3. - 3 特別講義 (シンガポール)



1. 巡回指導の概要

(1) 派遣の目的

国際協力事業団は労働省労働基準局及び中央労働災害防止協会の協力を得て、開発途上諸国の人材育成に寄与することを目的として、昭和49年度から主として労働安全衛生行政に携わる行政官を対象とする労働安全衛生行政セミナーを開催している。

平成元年度までに労働安全衛生行政セミナーは16回開催され42ヵ国 255名の研修員が参加している。

今回のフォローアップチームは、パプア・ニューギニア、マレーシア及びシンガポールの帰国研修員の所属機関及び労働安全衛生行政を所管する関係機関を訪問し、また帰国研修員と懇談することによって、帰国研修員の動向、研修に対する評価、今後の研修計画に対する要望、提言、フォローアップ事業に対するニーズ、労働安全衛生行政に係る問題点を把握し、今後の研修員受入事業及びフォローアップ事業の向上改善に資することと同時に、日本における最新の情報を伝えるため特別講義を行うことを目的として派遣されたものである。

(2) チームの構成

荒川 輝 雄	労働省労働基準局安全衛生部中央労働衛生専門官
木下 克 己	中央労働災害防止協会国際協力部技術協力係長
下河原 孝	国際協力事業団東京国際研修センター業務課

(3) 派遣国及び期間

派遣国	パプア・ニューギニア、マレーシア及びシンガポール
派遣期間	平成元年11月25日～12月13日（19日間）

(4) 日 程（概要）

1 訪問国及び訪問期間（3カ国、19日間）

(1) パプア・ニューギニア（PNG）

11月25日（土）から11月29日（水）まで

(2) マレーシア

11月30日（水）から12月07日（木）まで

(3) シンガポール

12月07日（木）から12月13日（水）まで

2 訪問先

- JICA事務所
- 日本大使館 (マレーシア、シンガポール)
- 派遣研修員選考担当官庁
人事院 (マレーシア)、大蔵省 (シンガポール)、労働雇用省 (PNG)
- 帰国研修員所属機関
労働省 (PNGにおいては、労働雇用省)
労働安全衛生行政担当部門
保健省及び生産性本部 (NPC)
- 工場視察
マレーシア板ガラス (マレーシア)
ブロードウェイ・エンタープライズ (シンガポール)

(5) 日程の詳細

- | | | | | |
|-----|---|-------|--|---------|
| 1 | 11月25日(土) | 09:30 | 東京発 | CO-962便 |
| | | 15:10 | グアム着 | |
| | | 18:00 | グアム発 | CO-993便 |
| | | 21:30 | ポートモレスビー着 | |
| | | | JICA事務所岡崎俊夫所長出迎え、同打合せ
(宿泊: Islander ホテル) | |
| 2 | 11月26日(日) | 10:00 | 市内主要地域の見学 (岡崎所長案内) | |
| | | 13:30 | 公開セミナーの準備 | |
| 3 | 11月27日(月) | 08:00 | ホテル発 | |
| | | 08:15 | JICA事務所着日程打合せ | |
| | | 09:30 | Miss Helen Baloi (Principal Staff Development Officer, Department of Labour & Employment) を訪問し、本日のスケジュール打合せ。 | |
| (注) | PNG訪問先省庁は Dept. of Labour & Employmentのみ。 | | | |
| | | 09:50 | Mr. James Gissua, Assistant Secretary, Industrial Retention Div., Department of Labour & Employment 訪問。 | |
| | | 10:15 | Mr. G. Tanabi, Deputy Secretary, Department of Labour & Employment 訪問。 | |

- 1 1 1 : 1 5 Mrs. A. K. Joel, Acting Secretary, Department of Labour & Employment 訪問。
- 1 3 : 0 0 Miss Helen Baloiloi, Principal Staff Development Officer, Department of Labour & Employment 訪問。
- 1 3 : 3 0 Mr. Ron Silovo, Assistant Secretary, National Employment Service Division, Department of Labour & Employment 訪問。
- 1 4 : 3 0 Mr. George Vaso, Assistant Secretary, Labour Administration Division, Department of Labour & Employment
- 4 11月28日(火) 0 8 : 3 0 Government Central Offices 到着
会議室にてセミナー準備
- 0 9 : 1 0 セミナー開始
※セミナー内容及び出席者はPNGにおける業務報告書(英文)参照
- 1 2 : 0 0 フォローアップチーム主催懇親会
- 1 5 : 3 0 面接調査 (Mr. D. Kaisava, Mr. T. Eliakim, Mr. P. G. Tokome)
- 5 11月29日(水) 1 0 : 0 0 J I C A 事務所挨拶及び業務報告書提出
- 1 5 : 4 0 PNG 発 PX-392 便
- 2 0 : 0 0 シンガポール着
(Century Park Sheraton ホテル宿泊)
- 6 11月30日(木) 1 1 : 4 8 シンガポール発 SQ-108 便
- 1 2 : 4 5 クアラルンプール着
- 1 4 : 5 0 J I C A 事務所訪問打合せ。
(湊次長、酒井職員)
- 1 5 : 2 0 日本大使館表敬 (三村穠一等書記官)
- 1 6 : 2 0 J I C A 事務所再訪打合せ継続
(岡部所長、湊次長、酒井職員)
- 7 12月 1日(金) 0 8 : 3 0 Mr. Azizan Ayob, Deputy Director of Public Services Department (PSD=人事院) 訪問
- 1 0 : 3 0 Mr. Sugunan Pillay, Deputy Director, Engineering Division, Ministry of Health 訪問
- 1 2 : 0 0 J I C A 事務所主催昼食会

- (三村一等書記官、淡次長、酒井職員)
- 8 12月 2日(土) 公開セミナー準備
- 9 12月 3日(日) 公開セミナー準備
- 10 12月 4日(月) 09:00 Mr. Harminster Singh, Deputy Director-General of Factories & Machinery Department訪問
- 10:30 Ex-participants 面接調査
(Mr. Jon Jaafar Bin Ton Omar, Mr. Zainuddin Bin Abdullah, Mr. Ridwan HJ. Hussain, Mr. Zakaria B. Nanyan, Mr. Chan Mun Chow)
- 14:30 Mr. Mah lok Abdullah, Assistant Director Productivity Centerを訪問、同時にEx-participants の一人として面接調査
- 11 12月 5日(木) 09:30 Mr. Asnan Pli, Deputy Secretary-General, Ministry of Labour(President of JICA Alumni Society)を表敬訪問
- 10:30 Mr. Rashidan Bin Haji Ahmad, Assistant Director SOC-SO面接。
- 14:00 セミナー実施(内容はパプアニューギニアに同じ又出席者はマレーシアの項参照)
- 16:30 フォローアップチーム主催懇親会
(Equatorial Hotel 内セミナー会場を使用、出席者はセミナー出席者に同じ)
- 12 12月 6日(金) 09:00 マレーシア板ガラス会社見学
(Mr. Lim Sow Khor, Joint Managing Director, 他)
労働省からMr. Harminster Singh同行。
- 16:00 JICA事務所挨拶及び業務報告書提出
- 13 12月 7日(木) 10:15 K. L. 発 SQ-105便
- 11:05 シンガポール着
- 12:30 JICA事務所主催昼食会
(石崎所長、小野所員、相沢派遣員、及び日本大使館水野二等書記官同席)
- 14:00 JICA事務所訪問

(所長より事務所業務の概要説明、及び小野所員と打合せ)

- 14 12月 8日(金) 10:00 大蔵省のPublic Service Division (PSD) を訪問し、Mr. Lee Kat Yan, Asistant Director, PSD 及びMs. Yip Geok Kong, Executive Officer, PSD から研修員選考に関し意見を交換。
- 12:00 日本大使館に上野景文公使を表敬訪問
- 14:30 労働省表敬訪問及び帰国研修員の面接調査
(氏名は英文レポート参照)
- 15 12月 9日(土) 8:30 労働省訪問Mr. Ameerali AbdealiからDept. of Industrial Safetyの業務概要の説明を受ける。
- 9:00 Broadway Enterprises訪問
(MR. Lim Row How, General Manager他、又労働省から3名同行)
- 16 12月10日(日) 公開セミナー準備
- 17 12月11日(月) 13:00 労働省主催昼食会出席
- 14:30 セミナー実施(テーマはPNG及びマレーシアに同じ)
- 19:30 フォローアップチーム主催夕食会
(ハイアットホテル内中華料理店)
- 18 12月12日(火) 10:00 JICA事務所大使館挨拶及び業務報告書提出
- 19:30 大使館主催夕食会
(ウエスティンスタンフォードホテル内コンパスローズにて)
- 19 12月13日(水) 9:00 シンガポール発 SQ-012便

(注) 本日程表中の「公開セミナー」は「特別講義」と同義である。

(6) 調査方法

フォローアップチームが出発する前に、現地JICA事務所を通じて、パプアニューギニア、マレーシア及びシンガポール帰国研修員に労働安全衛生行政セミナーに関する質問書(資料-4)を送付し、面接時に回収し、主としてこれをもとに面接による調査を行った。

また、帰国研修員の所属する機関の上司と懇談し、あるいは各国の労働安全衛生行政に携わる機関等を、視察して労働安全衛生行政セミナー及びフォローアップサービスに関するニーズの把握に努めた。

2. 労働安全衛生行政セミナーの概要と経緯

(1) 労働安全衛生行政セミナーの概要

労働安全衛生行政セミナーは昭和49年度に発足した。以来、毎年開催されており、平成元年度で通算第16回目を迎えている。1回当たりの参加人員は当初15名であったが、最近では18名に増員されており、平成元年度までに参加した研修員の総数は42カ国255名に達している。本セミナーの目的は下記の2点に要約される。即ち、

- a 我が国の労働安全衛生行政及び民間における労働安全衛生活動の現状を紹介することにより、開発途上国における労働安全衛生水準の向上に寄与する。
- b 開発途上国における労働安全衛生及びこれと関連の深い事項に関する情報、意見等の交換を行い、相互の理解と協力を促進する。

なお、本セミナーの参加者は従来労働安全衛生の企画管理に従事する政府職員としていたが、昭和63年度から、労働災害の防止を推進・指導している政府関係機関及び安全衛生推進団体の職員にまで、その対象を拡げた。

研修期間は約1カ月半で、その平成元年度のプログラムは次掲の通りである。

(2) 平成元年度 労働安全衛生行政セミナー日程

1. 10. 2~11. 18

	午前(9:30~12:00)	担 当	午後(13:30~16:00)	担 当	備 考
10/2 月					
3	米 日				
4					
5 木	JICAオリエンテーション	JICA	JICAオリエンテーション	JICA	
6 金	JICAオリエンテーション	JICA	JICAオリエンテーション	JICA	
7 土	JICAオリエンテーション	JICA			
8 日	フ リ ー		フ リ ー		
9 月	労働省、中災防オリエンテーション	労働省、中災防	労働省局長表敬	労働省、中災防	
10 火	フ リ ー		フ リ ー		
11 水	労働行政	労働省国際労働課 朝原課長補佐	国 別 討 議	労働省、中災防	
12 木	労働基準行政	労働省監督課 金子課長補佐	国 別 討 議	労働省、中災防	
13 金	中小企業対策(問題と改善策)	埼玉労働基準局 水口安全衛生課長	工場見学(中小企業) ㈱大宮製作所	労働省、中災防	
14 土	フ リ ー		フ リ ー		
15 日	フ リ ー		フ リ ー		
16 月	労働安全衛生	労働省国際課 林課長補佐	国 別 討 議	労働省、中災防	レセプション
17 火	中災防本部訪問	中 災 防	労働衛生検査センター・ 産業安全技術館見学	中 災 防	
18 水	労働者災害補償償済制度	労働省労災管理課 保坂法規第三係長	国 別 討 議	労働省、中災防	
19 木	(安)安全管理活動	労働省安全課 奈良中央産業安全専門官	国 別 討 議	労働省、中災防	
" "	(衛)衛生管理活動	労働省労働衛生課 狩野主任中央労働衛生専門官			
20 金	安全衛生教育	労働省安全課 中村中央産業安全専門官	国 別 討 議	労働省、中災防	
21 土	フ リ ー		フ リ ー		
22 日	フ リ ー		フ リ ー		
23 月	民間企業の安全衛生活動の現状と問題点	中災防講師 (開)リコー小林安全衛生課長	同 左	中災防講師 シチズン 時計(開) 中川安全衛生課長	
24 火	工場見学 リコー 厚木製作所	労働省、中災防	日本バイオアッセイ研究センター見学	中災防	
25 水	工場見学 シチズン時計(開)	労働省、中災防	労働省労働研究所(監督官教育の実務)	労働省労働研究所 尾崎教官	
26 木	(安)建設業の安全対策	建災防 安藤安全管理室長	同 左	建災防 安藤安全管理室長	
" "	(衛)化学物質による中毒予防対策	労働省化学物質調査課 荒川中央労働衛生専門官	じん肺予防対策	労働省労働衛生課 丸山中央じん肺診査区	
27 金	トータル・ヘルス・ プロモーション・プラン	中災防健康推進部 原口専門官	中小企業における安全衛生の実践	中災防講師 新宮運送㈱ 山本社長	
28 土	フ リ ー		フ リ ー		
29 日	フ リ ー		フ リ ー		
30 月	(安)運搬機械災害の防止	中災防安全管理部 藤原専門官	(安)自動機械等災害の防止	中災防安全管理部 寺嶋課長	
" "	(衛)職業病相談	中災防労働衛生検査センター 宇藤室長	(衛)作業環境測定と改善	中災防労働衛生検査センター 水口衛生管理士	場所 中災防
31 火	ゼロ災運動	中災防ゼロ災推進部 相澤次長	同 左	中災防ゼロ災推進部 藤永海軍 横浜資基地長谷川公益事業部長	

	午前(9:30~12:00)	担 当	午後(13:30~16:00)	担 当	備 考
11/1	水 東京安全衛生教育センター見学	中災防東京安全衛生教育センター 川崎所長	産業安全研究所清瀬実験場見学	労働省	
2	木 安全衛生保護具	中災防衛生管理課 技術衛生管理士	(安) 爆発災害の防止 (衛) 有機溶剤中毒の予防と 酸欠の防止対策	中災防安全管理部 加藤安全管理士 中災防衛生管理課 技術衛生管理士	
3	金 フ リ ー		フ リ ー		
4	土 フ リ ー		フ リ ー		
5	日 フ リ ー		フ リ ー		
6	月 監督指導の実際	神奈川労働基準局 木村監督課長	監督官(第一線)との意見交換	神奈川労働基準局(監督課)	
7	火 (安) 感震災害の防止	中災防安全管理部 小池安全管理士	(安) 機械災害の防止(事例研究)	中災防安全管理部 大田安全管理士	
8	水 (衛) 労働態勢による健康障害	中災防労働衛生検査センター 健康調査室 四部課長 労働省産業医学総合研究所 実験中毒研究部 川上労働医官	(衛) 騒音、振動障害の防止対策	中災防労働衛生検査センター講師 和歌山県立医科大学 宮下医師 労働省環境改善室 藤岡中央労働衛生専門官	
9	木 東京 → 大阪		工場見学 大阪印刷地共闘組合	労働省、中災防	
10	金 工場見学 未 定	労働省、中災防	工場見学 ㈱ダイヘン 技術課 所	労働省、中災防	
11	土 フ リ ー		フ リ ー		
12	日 大阪 → 広島		フ リ ー		
13	月 工場見学 マツダ㈱	労働省、中災防	フ リ ー		
14	火 広島 → 東京		同 左		
15	水 レポートメイキング	労働省、中災防	レポートメイキング	労働省、中災防	
16	木 Q and A (安全衛生)	労働省、中災防 (ゼロ災、安管、衛管、健康、検セ)	総務課(理系)	労働省、中災防 (JICA)	
17	金				
18	土 帰 国				
19	日				

(3) 研修員の受入の概要

年 度	日 程	定 員	参 加 実 員	＜アジア地域＞	バングラデシュ	ミャンマー	インドネシア	大 韓 民 国	ラオス	マレーシア	ネパール	パキスタン	フィリピン	シンガポール	スリランカ	タイ	香港	中 国	クメール	＜オセアニア地域＞	フィジー	バブア・ニューギニア	ソロモン諸島	西サモア	＜中近東地域＞	アフガニスタン	エジプト	イラン	イラク	トルコ	
'74	10/27~11/29	15	15	8			1	2	1	1				1	1	1	1		1	0					2						
'75	10/9~11/19	15	13	8			1	1	1		1	2	2	1	1	1	1			0					2	1	1				
'76	10/7~11/17	15	15	7			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1		1			2		1	1	1	1	
'77	9/29~11/4	15	15	8			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			0					3	1	1	1	1	1	
'78	8/17~9/20	15	14	7			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			0					4	1	1	1	1	1	
'79	10/4~11/16	15	14	8			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			0					2	1	1				
'80	10/2~11/14	15	12	7	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2			0					1	1					
'81	10/1~11/13	15	15	9	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2			0					1						
'82	9/30~11/12	15	18	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			2	1	1			3			2			
'83	9/30~11/12	15	15	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1		1			2			1	1	1	
'84	9/27~11/9	15	17	8			1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1			4	1	1	1	1	0						
'85	9/26~11/8	18	19	8			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1				3	1	1	1	1	1	
'86	9/22~11/3	18	19	9			1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2			1	1				2	2					
'87	9/22~11/2	20	19	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			2		1	1	1	1	1					
'88	10/3~11/19	18	18	8	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1								2	1	1	1	1	1	
'89	10/2~11/18	18	17	10			1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1								2	1	1	1	1	1	
	計		255	180	6	8	11	14	5	1	12	5	2	16	14	8	19	5	3	1	12	4	5	1	2	32	1	11	6	5	9

年 度	日 程	＜アフリカ地域＞	ケニヤ	スーダ	ウガンダ	ジンバブエ	チニジア	＜中南米地域＞	ボリワイ	ブラジ	チリ	コロンビア	ハイチ	メキシコ	パナマ	ウルグアイ	ニルバルドル	バルバドス	アルゼンティン	ガイアナ
'74	10/27~11/29	0						5	1	2	2									
'75	10/9~11/19	0						3	2	1										
'76	10/7~11/17	1	1					4	1	1	1			1						
'77	9/29~11/4	0						4	1		1			1		1				
'78	8/17~11/20	0						3	1		1			1						
'79	10/4~11/16	1	1					3	1	1				1						
'80	10/2~11/14	0						4		1				2	1					
'81	10/1~11/13	0						5		2				2	1					
'82	9/30~11/12	0						4	1	1		1		1						
'83	9/30~11/12	0						5	1	1	1	1		1						
'84	9/27~11/9	0						5	1	1		1		1			1			
'85	9/26~11/8	0						7	1	2	1			1	1		1			
'86	9/22~11/3	3	1	1	1	1		4		2	1	1								
'87	9/21~11/2	2	1	1				4		2									1	1
'88	10/3~11/19	4	1	1	1	1	1	4		1		1	1							1
'89	10/2~11/18	3	1	1	1	1			3	1		1	1							
	計	14	5	2	3	3	1	64	14	19	8	6	2	12	3	1	1	1	1	2

3. 各国別調査内容

3-1 はじめに

フォローアップチームの派遣目的等は、本報告書第1項記載の通りであるが、その結果把握した意見・要望、労働安全衛生行政における問題点等は、各国間で大きな差がある。

パプア・ニューギニアにおいては、行政組織、法制度は整備されているが、その実効を挙げるにあたっては、予算不足等の問題があるように見受けられた。従って、フォローアップチームが、関係者及び帰国研修員から収集した意見・要望は、上部の関係者からは、資金、機材等の援助、職員の能力開発、情報の提供であり、第一線にあって実際の監督業務に従事している帰国研修員からは、予算、資料等が不足する中での活動の説明及び日常の活動に対する資料提供をはじめとするJICAの支援要請であった。

マレーシアにおいては、労働災害の発生率が非常に高いこと（日本の約4倍）、しかも労働省の統計に載らないケースもあるので、実態は発表されている数字以上に悪いこと、行政組織及び法制度はかなり整っており、かつ、実効を挙げているが、零細企業が多く、これらの企業では経営者も従業員も安全衛生に関する意識が乏しいため、実効を挙げるのが難しい状況にあること、などが良く理解できた。従って、関係者が大きな関心を持っているのは、日本ではいかにして正確な統計資料を集めているのか、また、どのようにして実効ある労働安全衛生行政を行っているのか、経営者及び労働者に対する教育をどのように行っているのか、といった点についてであった。

また、工業化を国の政策として進めているところから新技術の導入も進んできており、産業用ロボット、VDT（Visual Display Terminal；ワードプロセッサ、パーソナルコンピューター等を言う。）等に関する安全衛生対策についても関心を持っていた。

シンガポールにおいては、制度的にも人的にも十分実効の上がる体制が整っているが、労働災害の発生率（度数率）はまだ日本の2倍程度あり、日本に学ぶという姿勢と熱意は十分に感じることができた。また、労働安全衛生セミナーに対する要求水準は、他の2ヵ国に比べると高い、との印象を受けた。更に、産業用ロボットの安全や高齢化の進展に伴う安全衛生問題といった日本と同様の新しい課題にも関心が高かった。

労働災害防止のための「ゼロ災運動」とその手法の1つである新KYT（危険予知訓練）については、日本とシンガポールの文化的背景の相違から、シンガポールでこの運動を推進するに当たり困難な面もあるが、今後とも引き続きこの運動を推進し、その効果を測定したい、との意欲を持っていた。

これらの詳細については、国別のレポートの中で述べることとする。

3-2 パプア・ニューギニア (PNG)

(1) 産業事情等

パプア・ニューギニアは、オーストラリアの北側にあるニューギニア島の東半分とこの島の東側の多数の島々からなる島嶼国である。面積は約46.17万㎡、人口は約349.9万人である。

主な産業は、コブラ、コーヒー等の農業、林業、漁業という第1次産業であり、また、銅鉱山がある。

(2) 労働雇用省訪問

安全衛生行政関係者のほか次官代行、次官補、労使関係担当課長、雇用サービス担当課長とも面談した。

ア 労働雇用省の組織

労働雇用省の組織は、資料(5)の通りであり、労働安全衛生行政は、労働行政課 (Labour Administration) の安全技術部門 (Safety & Technical Service) が、担当している。この地方機関として20の労働事務所 (Provincial Labour Office) がある。

安全監督官 (Safety Inspector) は安全衛生全般を担当しており、6人である。2人は本省におり、うち1人はボイラー検査官 (Boiler Inspector) である。4人は、1人ずつ4つの主要な労働事務所におり、全国を4つに分けた広い地域をそれぞれ担当している。なお、賃金、労働時間などの一般労働条件については、各労働事務所に1~2名ずついる労働事務官 (Labour Officer) が担当している。

イ 行政課題

大きな行政課題としては、労働関係、ハンディのある労働者の雇用確保、安全衛生の確保等がある。

新規学卒者 (High School) に対しては、労働雇用省が無料で多くの職業訓練コースを用意しており、そのために情報をまとめたパンフレットも作成している。しかし、新規学卒者以外の労働者の再雇用を促進するためには、これらの他に夜間の職業訓練コースや首都であるポートモレスビー以外の地方でのコース設定の必要性を感じている。個別のコース新設の必要なものとして自動車修理、コンピューターのメンテナンスを考えている。また、労働雇用省として民間企業における訓練プログラム設定の重要性を認識している。

ウ 行政推進上の問題点

予算及び人材の不足が大きな問題である。以前は、270万キナ (Kina、キナはPNGの通貨単位で、1キナは約181円) あった労働省の予算が1988年には170万キナに1989年には160万キナに削減された。ただし、1990年については、250万キナに増額される予定である。人材の不足に対しては、職員の能力開発の必要性、また、そのための教育訓練の必要性を強く感じて

いる。

エ 労働安全衛生関係法令

労働安全衛生福祉法 (Industrial Safety, Health and Welfare Act) が、1961年に制定されている。この法律は、労働災害を発生させると認められる全ての危険を作業場から除去することを事業者に義務付けている。また、危険な作業の場合には労働者に適切な保護具を支給しなければならないことを定めている。

オ 労働災害発生状況

労働者補償事務所 (Office of Worker's Compensation) が1986年に初めて作成した1984年及び1985年の年報によると、1978年に制定された労働者補償法 (Worker's Compensation Act) に基づき補償の対象とされた労働災害は、次のとおりである。なお、この法律は全産業の全労働者をその対象としている。

1984年	死亡	100人	負傷	860人	計	960人
1985年	死亡	80人	負傷	758人	計	838人

業種では、

① 農業・漁業	204人 (24.3%)
② 運輸倉庫業	84人 (10.0%)
③ 建設業	80人 (9.5%)
④ 行政機関・国防・警察	78人 (9.3%)
⑤ 製造業	71人 (8.5%)
⑥ 林業	71人 (8.5%)

の順序で労働災害が多い (1985年)。

カ 安全衛生事情

事業者・労働者の安全意識の高揚、そのための教育の実施が重要な課題である。暑いこともあり、労働者は手袋等の保護具を外してしまう、という問題がある。また、新技術が導入されてきており、これに関する教育訓練の十分行われていない労働者の安全確保も課題となってきた。なお、環境汚染という問題は深刻ではない。

銅鉾山については、外国の企業が経営しており、技術、安全対策とも国際的な基準に基づいている。また、賃金が高いなど労働条件も良い。

日本の労働災害防止協会に相当する団体はないが、規格協会 (National Standards Association) が、英国、米国、オーストラリア、日本等の規格を参考にしながら優良機械の規格を定めている。

キ 意見、要望

日本における労働行政関係のセミナーの受講を強く望んでいる。対象のコースとしては、労働安全衛生行政セミナーのほか、労使関係行政セミナー及び雇用行政セミナーである。

(3) 帰国研修員との面談

ア 安全衛生事情

保護具は会社の責任で労働者に支給されるが、保護衣や安全靴は暑いこと、重いことから着用されていない。また、日常生活においても裸足の者が多いことから、労働の場でも裸足の者が多い。なお、健康診断は労働者の責任である。

行政の推進にあたっては、ILO、オーストラリア厚生省の援助を受けている。

日本と同様の安全週間があり、マスメディアを使用しての国民へのキャンペーンを実施している。労使の安全意識を高めるための安全のキャンペーンは重要である。しかしながら、そのための機材、資料ともほとんどないのが実情である。

また、予算、人員とも不足しており、安全監督官は何もかもが乏しい中で活動している。日頃相互の意志疎通も必ずしも十分とは言えず、今回の帰国研修員との面談が彼らにとって良い機会を提供することにもなった、ということである。

なお、フォローアップチームが実施した特別講義において、政府機関又は公社において安全衛生を担当する者が出席し、一堂に会したが、これまでは、このようなことはなかったため、この講義がその良い機会を提供することとなった。今後ともこのような会合を持っていきたい、との発言が、労働行政課長のMr. Vasoから講義の初めになされた。

イ 意見、要望

彼らの要望としては、労働安全衛生行政セミナーの継続受講、日本の労働省において勤務すること、PNGにおけるフォローアップの講義の実施である。また、特に、労使の安全意識の高揚のために用いる資料としてポスター、リーフレット、OHPシート、スライドフィルム（英語のもの）及び監督の際に用いる各種測定器の提供を強く望んでいた。ただし、労働雇用省は、オーバーヘッドプロジェクター、スライドプロジェクターともっていない。

3-3 マレーシア

(1) 産業事情等

マレーシアは、南シナ海をはさんでマレー半島の南半分（半島マレーシア）とボルネオ島北西海岸部（サバ州、サラワク州）からなり、13州に分かれている。面積は、33,0434万㎡、人口は、約1,560万人である。

第1次産業が中心ではあるが、政府として工業化を推進中である。天然ゴム、パーム油（椰子油）及びスズは、世界一の生産量である。また、石油、木材、胡椒も主要な生産物であり、

運輸、観光も重要な産業である。

自動車の生産には、設計、生産計画の立案、これに必要な部品の生産・集積、多数の技能工の教育訓練等の総合的な能力及び各種部品を生産し、供給する部品メーカーの存在が必要とされるが、マレーシアには、国産車（プロトン・サガ、Proton Saga）があり、政府としてこのメーカーに対する支援、部品の国産化を推進中である。技術提携をしている日本のメーカーからエンジン等の主要部品は供給されているが、窓ガラス、タイヤ、ワイパーブレード等の部品は国内生産である。なお、フォローアップチームが滞在中に、国内市場向け16万台及び英国市場向け1万台達成の祝賀式がマハティール首相出席の下に行われた。

(2) 労働省訪問

労働省を訪問し、工場機械部の幹部及び帰国研修員と面談した。また、研修員派遣の窓口である人事院（Public Service Department, PSD）及びこれまで3名の研修員を派遣している保健省（Ministry of Health）を訪問し、研修に関する意見交換を行った。

ア 労働省の組織

労働省（Ministry of Labour）の組織は、資料(7)の通りであり、労働安全衛生行政は、工場機械部（Factories and Machinery Department）が、担当している。工場機械部は、5つの課に分かれている。この地方機関として11の事務所がある。

工場機械部に所属する職員は全部で235人であり、本省に42人、地方に200人近くが配置されている。機械又は化学のエンジニアが多く、また、インダストリアル・ハイジニストもいる。

イ 労働安全衛生関係法令

1967年に制定された工場機械法（Factories and Machinery Act）と関連する12の規則及び1984年に制定された石油安全対策法（Petroleum（Safety Measures）Act）と関連する5つの規則がある。

工場機械法は、製造業、鉱業、採石業と建設業に適用される。農業、林業、漁業、畜産業、運輸業、商業、政府機関には、適用されない。この法律が全産業に適用されていないので、適用の対象となる労働者は、国内全体の約20%である。石油安全対策法は、石油及び石油製品の輸送、貯蔵、取扱及び利用に適用される。

ウ 労働災害発生状況

労働災害は、年間約70,000件が労災補償の対象として把握されている。「年千人率」（労働者1,000人当たりの1年間における労働災害の発生件数を言う。）でいうと約22であり、日本（1988年が5.2）の約4倍である。この統計は、日本の統計と同じく、死亡又は休業4日以上 の災害をその対象としているが、民間の損害保険の方が政府のものより補償内容が良い

こと、また、労働省に対して報告すると労働省の職員による災害の調査などがあることから、労働省に報告されていないものも多い、という現状にある。そのため、実際の災害件数は更に多い、と推定されている。

1984年においては、全産業における労働災害は64,182人であるが、業種としては、製造業(30,577人、47.6%)、農業・林業・漁業(17,276人、26.9%)、建設業(5,829人9.1%)が多い。

エ 安全衛生事情

労働者も労働組合も、関心は安全よりも賃金にあったが、労働省として強力に行政を進めてきており、その結果もあり、最近では、労働組合は、賃金も安全も両方重要である、ということを認識してきた。

日本の労働災害防止協会に相当するマレーシア産業安全協会(Malaysian Society for Industrial Safety, MSIS)があり、安全衛生に関するセミナーや労働者の教育を行っているが、財政基盤が弱く、職員は、パートタイマーであり、十分な活動はできていない。MSISに対しては、工場機械部が指導しており、また、労働省の社会保障機関(Social Security Organization, SOCSO or PERKESO)が財政援助を行っている。

マレーシアの労働組合会議(Malasian Union Congress)も労働者の安全意識高揚のための活動をしており、工場の安全推進者の教育を行っている。また、ここに対しては、社会保障機関が財政援助を行っている。

マレーシアにおいても、フィリピンの労働安全衛生センターのようなものを作る計画があるが、政府のどの部門に設置するのかが決まっていないこと、また、設置した後の運営費をどうまかなうか、という問題があり、まだ設置の決定はしていない。設置を担当する機関としては、工場機械部、社会保障機関及びマレーシア規格研究所(Malaysian Institute of Standards)の三者が挙げられているが、マレーシア規格研究所が科学省(Ministry of Science)に所属しており、省が異なることもあって、その決定が困難になっている。

オ 意見・要望

① セミナーに対する意見・要望

工場視察については、ケーススタディとして視察後に研修員相互の討議をセミナーのカリキュラムとして設定すること、研修員個人毎に関心を持っている分野の工場において、実際の安全衛生活動を1～2週間かけて勉強することを要望している。

また、セミナーの期間延長及び帰国研修員に対する上級コース設置の要望も出された。

なお、本年度の研修員であるMr. Rasidanに面接したところ、社会保障機関から初めての参加であり、社会保障機関からの本セミナーへの引き続きの参加及びリハビリテーション

のセミナーへの参加を要望していた。これについては、研修員選考機関である人事院へ要請するよう伝えた。

② フォローアップに対する意見・要望

日本の安全衛生に関する行政動向、技術動向についての定期的なセミナーの開催、帰国研修員に対する1～2週間のリフレッシュセミナーの開催、最新情報の定期的な送付を要望している。特に、日本の安全衛生行政がどのようにして効果を挙げたのかということ、最近の安全衛生事情と最近の規則に関する情報を望んでいる。また、最新の技術動向として、産業用ロボットの安全対策及びVDTの使用に伴う労働衛生対策に関心を持っている。

(3) 生産性本部 (National Productivity Centre;NPC) 訪問

生産性本部を訪問し、帰国研修員と面接した。

ア 組織及び活動

生産性本部は、生産性向上の指導、促進、普及を目的として1962年に設立されている。通商産業省 (Ministry of Trade & Industry) に所属しており、その組織は、資料(9)の通りである。このセンターは、5つの地方機関を持っている。

活動内容としては、教育訓練、コンサルティング、指導助言、管理・生産性に関する情報提供の分野がある。教育訓練分野として多数のセミナーを開催しており、その中に安全衛生に関するものとして、産業安全1(4日間)、産業安全2(産業安全1の上級コース、4日間)、管理者用安全衛生コース(5日間)、安全推進者用安全衛生コース(6日間)等及び特定の企業の関係者のみを対象とした特別のコース(1日～5日間)が含まれている。

イ 意見・要望

セミナーについては、工場視察後にケーススタディとして研修員相互の討議の実施、またフォローアップとして帰国研修員との接触を維持することを要望している。

(4) 工場視察

工場における安全衛生活動の状況を視察するため、マレイシア板ガラス (Malaysian Sheet Glass Berhad, MSG) を訪問した。

ア 会社の概要

マレイシアには、ガラス製品工場は、3社あるが、他の2社は、ガラスびんを製造しており、板ガラスを製造しているのは、同社だけである。主要製品は、板ガラス及び安全ガラス(自動車用等)である。

日本の企業2社との合併企業であり、1971年に設立された。

労働者数は、約1,100人であるが、日本人は生産ラインのマネージャークラスが11人いるだけである。

生産工程は自動化されており、工場では、労働者は製造装置の監視、出来上がった製品の検査、包装等の作業に従事している。

自動車用の安全ガラスについては、国産車のプロトン・サガ用に製品の約8割を出荷しているほか、JISの認定をとり日本への輸出等もしている。

イ 安全衛生の概況

工場内は、工程が自動化されており、労働者が原材料や工具等を直接取扱わないこともあり、整理整頓が行き届いている。

安全衛生活動は、労使とも熱心であり、日本の企業と同様に安全衛生に関する労使の協議の場として、会社幹部と労働組合の代表により組織された安全委員会 (Safety Committee) が設けられている。安全衛生活動は、合併している日本の企業のものを取り入れており、基本的には、日本の大手企業における活動とほぼ同様であるが、マレーシアの実情に合わせて、両者の良いところを組み合わせている。企業内の安全規則が設けられており、イラスト入りで、英語とマレーシア語の2ヶ国語で書かれたハンドブックにまとめられている。

設備は自動化されており、また、日本の合併企業でもあり、技術の面でも、安全衛生の面でもマレーシアの優良企業である、との印象を受けた。

3-4 シンガポール

(1) 産業事情等

シンガポールの面積は、621km²、人口は、265万人である。

国際金融、製造業（石油精製、船舶製造・修理、エレクトロニクス）、運輸・通信及び観光が経済の4本柱であり、多数の企業が海外から進出してきている。労働集約的産業から技術・資本集約的産業を主とした経済体質に転換するため、「産業構造高度化政策」を推進中である。

(2) 労働省訪問

労働省を訪問し、安全衛生行政を担当する3つの部の幹部及び帰国研修員と面談した。また、研修員派遣の窓口である大蔵省 (Ministry of Finance) を訪問し、研修に関する意見交換を行った。なお、大蔵省からも労働安全衛生セミナーについての意見・要望が出されたが、これらは労働省から出されたものと重複しているので、ここでは割愛する。

ア 労働省の組織

労働省 (Ministry of Labour) の組織は、資料(B)の通りであり、労働安全衛生行政は、労働安全部 (Department of Industrial Safety)、労働衛生部 (Department of Industrial Health) 及び労働安全衛生訓練促進部 (Occupational Safety & Health (Training & Promotion) Department) の3つの部が担当している。職員数は、それぞれ58人、22人、16人

である。労働安全部は、5つの課に、労働安全衛生訓練促進部は、2つの課に別れている。

イ 労働安全衛生関係法令

1973年に制定された工場法 (Factories Act)及びこれに基づく8つの主な規則がある。

ウ 労働災害発生状況

シンガポールにおいては、1970年代から工業化が急速に進展し、これに伴って労働災害の大幅な増加、環境の汚染が問題化してきた。1970年には、1,525人であったが、1980年には、6,089人となり、約4倍に増加した。しかし、その後は減少し、1986年には、景気の後退もあり、3,856人にまで減少した。1987年、1988年は、産業活動の活発化から再び増加し、それぞれ4,155人、4,328人となった。船舶製造・修理業 (1988年において814人、18.8%)、建設業 (同じく526人、12.2%) の2つの業種における災害が非常に多い。なお、労働災害の定義は、日本 (死亡又は休業4日以上) とは若干異なり、死亡、休業3日以上又は入院24時間以上のものである。

労働災害の発生頻度を表す「度数率」(労働時間100万時間当たりの労働災害の発生件数) は、1981年には、6.5であったものが1988年には4.0にまで減少したが、まだ、日本 (1988年において2.09) の約2倍である。

また、職業病は、労働災害とは別に統計が取られており、1988年には、1,116人であった。騒音による難聴 (795人) 及び皮膚障害 (259人) が非常に多い。1986年には、騒音による難聴が1,689人と増加したことにより合計は2,068人となっていた。難聴は、金属加工業、船舶製造・修理業で多く発生しているが、これらの多くは初期段階のものであり、労働者補償法 (Worker's Compensation Act) の対象となる程度のものは少ない。皮膚障害の原因の多くは、各種の油、溶剤、セメントである。

エ 安全衛生事情

労働災害の多くは安全衛生に関する意識や知識の不足から発生しており、労働省は、労働災害を防止するために関係法令の施行、経営者や労働者の教育訓練、企業における社内安全規則の作成等の促進活動を行っている。

シンガポール建設業協会、シンガポール使用者連盟、シンガポール海運業協会といった使用者団体が労働省の指導により安全衛生活動を実施している。また、労働組合会議 (National Trade Union Congress) も安全衛生教育を実施している。

工場においては、産業用ロボットの導入、自動化等が進んでおり、これら新技術の導入に伴う安全衛生対策、VDTの使用に伴う労働衛生対策が新しい課題となってきている。また、サービス産業の拡大が進展していることから、工場法の適用をこれらの産業にまで拡大することを検討している。更に、日本と同様に高齢化が進んでいることからこれに伴う安全衛生

全衛生問題、特に高齢労働者の健康確保・増進について大きな関心を持っている。

オ 意見・要望

① セミナーに対する意見・要望

セミナーの設定関係については、シンガポールと同様に東南アジア諸国では、安全だけを専門に監督する監督官の制度（労働衛生関係は、別の職員が担当している。）を持つ国が多いので、安全と労働衛生とのコースを分けること、という意見が出された。

また、研修員は、安全衛生の基礎的事項は既に承知しているので、安全衛生の基礎的事項よりも、日本において行政、企業が実際にどのようなシステムで、どのような活動をしているのか、という実践面についてより重点を置いて学ぶことを要望している。

講義については、英語で実施することを望んでおり、日本語で講義する場合は、通訳者及び講義者に対して通訳者を介しての効率的な講義方法について事前にオリエンテーションを行うこと、オーディオビジュアル機器（AV機器）をより多く活用すること、また、OHPを使用する場合には、事前にOHPシートのコピーを配布することを要望している。配布されていないと、研修員は、シートの内容を書き取ること、あるいは、その説明を聞くことのいずれかしかできない。

工場視察については、中小企業を視察すること、少なくとも1つは、研修員の関心のある分野の工場（造船所等）を視察すること、また、企業がそれまでに安全衛生についてどのような問題をかかえ、それをどのようにして解決してきたか、というプロセスを学ぶことを要望している。

また、日本において労働基準監督官との同行によるOJT、労働研修所における研修状況の視察を要望している。

② フォローアップに対する意見・要望

新しい情報に関する定期刊行物を送付すること、また、安全衛生に関する研究所、大学の英語版刊行物を送付することを要望している。

(3) 工場視察

工場における安全衛生活動の状況を視察するため、ブロードウェイ・エンタープライズ（Broadway Enterprises Pte., Ltd.）を訪問した。

ア 会社の概要

シンガポール島の西端にあるジュロン（Jurong）工業団地の一角にあり、電気製品等の発泡プラスチック製梱包材料、アイロン、カセットデッキのプラスチック部品を製造している。どちらの製品も工程は自動化されており、労働者は、出来上がった製品の検査、包装等の作業に従事している。

日本の企業と技術提携しており、研修のために毎年労働者を相互に派遣し合っている。
労働者数は、ブロードウェイ・グループが、約1,000人、この会社が約200人である。

イ 安全衛生の概要

工程は自動化されているので、定常作業中は危険性は少ないと考えられるが、これらの機械設備のメンテナンス作業はそのようには考えられないところである。この安全衛生対策については、メンテナンスの作業者はいずれも経験10年以上のベテランであり、また、新しい機械を導入したときには、そのメーカーから技術者が来て、メンテナンスについても指導することにより対応している。

1988年の労働災害は、4件であり、いずれも軽傷であった。

設備は自動化されており、また、シンガポールに進出してきた多数の企業に製品を納入していることからしても、技術の面でも、安全衛生の面でもシンガポールの優良企業である、との印象を受けた。

4. 調査結果のまとめ

4-1 面接調査のとりまとめ

今回のパプア・ニューギニア、マレーシア、シンガポールにおける労働安全衛生行政セミナー帰国研修員に対するフォローアップによる調査結果をとりまとめると次の通りである。

(1) 帰国研修員の活動状況及び労働安全衛生行政セミナーに対する評価

今回面談することのできた帰国研修員は、いずれもそれぞれの国において安全衛生行政の重要なポストに就いており、研修成果をその業務に活用している。したがって、労働安全衛生行政セミナーは、帰国研修員及びその上司等から高く評価されており、今後の継続及びその内容の充実の要望が強い。

(2) 今後の労働安全衛生行政セミナーに関する意見・要望

今回面談することのできた3カ国の関係者及び帰国研修員の労働安全衛生セミナーに関する主な意見・要望を取りまとめると次の通りである。

ア セミナーの設定関係

安全と労働衛生のコースに分けること。

セミナーの期間を延長すること。

イ 講義関係

① 講義の内容

日本において行政、企業が実際にどのようなシステムで、どのような活動をしているか、という実践面についてより重点を置いて学ぶこと。

② 講義の効率化

講義については、できるだけ英語で実施すること。また、それが困難で、通訳を介して日本語により講義する場合には、より効率化した手法により行うこと。

③ AV機器の使用

講義内容の理解を助けるため、オーディオビジュアル機器（AV機器）の使用を増やすこと。また、OHPの使用にあたっては、使用するシートのコピーを事前に研修員に配布すること。

ウ 工場視察関係

① 中小企業の視察、研修員の関心のある分野の工場を選択

視察する工場は、大規模なものばかりでなく、中小企業を視察すること。また、全員が同じ工場を視察しているが、研修員の関心のある分野がそれぞれ異なることから、研修員の関心のある分野の工場を選択できるようにすること。

② 工場の安全衛生活動の視察

工場における実際の安全衛生活動を視察すること、企業がそれまでに安全衛生についてどのような問題をかかえ、それをどのようにして解決してきたか、というプロセスを学ぶこと。

③ 視察後の研修員の相互の討議

工場視察後にケーススタディとして研修員相互の討議を実施すること。

エ その他

① 監督官と同行してのOJT

日本において労働基準監督官と同行し、研修員に対して安全衛生監督のOJTを行うこと。

② 労働研修所における研修状況の視察

労働省労働研修所への訪問については、施設の視察だけでなく、職員の研修状況の視察を行うこと。

(3) 帰国研修員に対するフォローアップに関する意見・要望

ア 最新情報の定期的提供

日本における最近の安全衛生事情（労働災害の動向、課題、法令改正）、技術情報に関する定期刊行物、出版物を送付することは、3ヵ国とも強く要望していた。また、日本の安全衛生関係の研究所、大学の英語版の刊行物の送付についても要望があった。

イ 帰国研修員に対する上級コースの設置、セミナーの開催

帰国研修員を対象とした上級コースの設置及び日本における最近の安全衛生事情、技術情報に関するセミナーの現地での開催について要望があった。

ウ 安全衛生意識高揚のための資料等の提供

パプア・ニューギニアにおいては、労使の安全意識の高揚のために用いる資料としてポスター、リーフレット、OHPシート、スライドフィルム（英語のもの）及び監督の際に用いる各種測定器の提供を強く望んでいた。

4-2 アンケート調査のとりまとめ

本調査については、今回のフォローアップチームの派遣に際し、帰国研修員の本セミナーを受講しての効果、セミナーに対する評価、今後のフォローアップの要望等に関してあらかじめ把握し、帰国研修員との面接時の意見交換を効率よく実施するため及び面接が不可能な帰国研修員の意見・要望を漏れなく收拾するために実施したものである。

本調査の内容、その回収状況及び結果のとりまとめの概要、個々の内容については、次に示す通

りである。

(1) 調査表の内容

1 氏名・参加年度・所属組織、部課の名称・住所

あなたは職務上どの程度の地位にあるか（○をつけてください。）

- ① Department Head or Higher（部長、あるいはそれ以上のクラス）
- ② Division Head（課長クラス）
- ③ Section Head（係長クラス）
- ④ Ordinary Member of Staff（一般職員）
- ⑤ Others（その他）

2 帰国後、あなたの地位あるいは配置が変わりましたか。もし変わっていたら、どのように変わったか職務の内容も含めて説明ください。

3 現在、労働安全衛生の分野の職務に就いていますか。（○をつけてください。）

- ① はい
- ② いいえ、現在は就いていません。（セミナー参加後 年間就いていました。）
- ③ いいえ（セミナー参加後、就く機会がなかった。）

4 セミナーはあなたにとってどのくらい有益でしたか。（○をつけてください。）

- ① 十分有益であった
- ② かなり有益であった
- ③ 何とも言えない。
- ④ それ程有益でなかった
- ⑤ 全く有益でなかった

5 4の質問で有益であったと答えた場合どのように有益であったか、記入してください。

6 4の質問で有益でなかったと答えた場合、その理由を記入してください。

7 貴国では、帰国研修員同士の会議・情報交換の場等がありましたか。

（○をつけてください。）

- ① はい（ 回ありました。）
- ② いいえ、ありません。

8 帰国後研修員に対し何らかのフォローアップをする必要性がありますか。

（○をつけてください。）

- ① 非常に必要
- ② かなり必要
- ③ 何とも言えない
- ④ それ程必要ない
- ⑤ 全く必要ない

9 8の質問で、フォローアップが必要と答えた場合、どのようなフォローアップが望まれるか記してください。

10 将来、労働安全衛生を推進する上で、何か問題があれば、簡潔に記入してください。

11 セミナーをより効果的に行う上で、どのような改善が必要であるか、意見を記してください。

(2) 労働安全衛生行政セミナーフォローアップに係る質問表の結果(概要)

I 質問表の回収状況(1988年度まで)

- ① パプア・ニューギニア…………… 3名(帰国研修員 5名)
- ② マレーシア…………… 9名(帰国研修員10名)
- ③ シンガポール…………… 12名(帰国研修員13名)

II 主なアンケート結果

1 セミナー終了後、配置あるいは所属の変更の有無

- ① 変わった……………パ1、マ4、シ1、計6名
- ② 変わらない……………パ2、マ5、シ11、計18名
- ③ 無回答…………… 0

2 現在、業務上産業安全衛生分野に関わっているか

- ① 関わっている……………パ3、マ6、シ12、計21名
- ② 一時関わったが現在関わっていない……………マ3、計3名
- ③ 関わっていない…………… 0

3 セミナーは役にたったか

- ① 充分役にたった……………パ1、マ4、シ5、計10名
- ② かなり役にたった……………パ2、マ5、シ6、計13名
- ③ 何ともいえない……………シ1名
- ④ 必ずしも役にたったとは言えない…………… 0
- ⑤ 全く役にたたなかった…………… 0

4 セミナー参加者間の会合あるいは情報交換が行われているか

- ① 行われている……………マ5、シ3、計8名
- ② 行われていない……………パ3、マ4、シ9、計16名
- ③ 無回答…………… 0

5 セミナー参加者に対して何からのフォローアップの必要があるか

- ① 非常に必要である……………パ2、マ4、シ3、計9名
- ② かなり必要である……………パ1、マ5、シ2、計8名
- ③ 何ともいえない……………シ2名
- ④ それほど必要でない……………シ4名
- ⑤ 全く必要ない…………… 0

(3) 個別調査表 (PNG 3, マレーシア 9, シンガポール 2 計 24)

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Tony Eliakin	P. N. G. 1982	Department of Labour & Employment (Lae)
セミナーに関する意見、要望等 (質問4、5、6、8、9、10、11関係)		
有益性 (質問4)	質問4回答の根拠 (質問5、6)	
<u>1 十分有益</u> 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・日本では、政府が産業安全の重要性を認めており、監督業務やいろいろな研究機関での調査業務への予算措置、また、工場見学における、労働者や工場の安全状況からも明らかであり、そうした日本の状況を見ることできてよかった。	
フォローアップの必要度 (質問8)	必要なフォローアップの内容 (質問9)	・帰国研修員が直面する諸問題への対応 所定の分野の特別教育あるいは組織構築 に関する、日本の有する幅広いノウハウ
<u>1 非常に必要</u> 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない	に基づくアドバイス	
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点 (質問10)	・産業安全は、Labour Administrationの管轄だが、予算面での問題がある。 ・労働雇用局 (自分の所属部門) はサービス部門との位置づけがあり、財政措置の中心が経済部門にされている。 ・衛生部局、環境保護部局等いろいろな部局があり、産業安全衛生を推進する上で、そうした部局の調整が課題となっている。	
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等 (質問11)		

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
Peter Gimis Tokome	P. N. G. 1984	Department of Labour & Employment (Rabaul)
セミナーに関する意見、要望等(質問4、5、6、8、9、10、11関係)		
有益性(質問4)	質問4回答の根拠(質問5、6)	
1 十分有益 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・新しい技術を習得できた。 ・衛生部局で進める統括業務に役だった。 ・いろいろな資料を得ることができた。	
フォローアップの必要度(質問8)	必要なフォローアップの内容(質問9)	
1 非常に必要 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない	・日本あるいは、POM(ポートモレスビー)での最低1か月のセミナー開催 ・日本の労働省(監督署)での3か月間の研修フォローアップ	
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点(質問10)	・非常に困難。業務過多なため(人手が少ない。)	
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等(質問11)	・質問9に同じ	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
Daniel Kaisava	P. N. G. 1987	Department of Labour and Employment
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 <u>かなり有益</u> 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	新しい技術を学ぶ事ができた。	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
1 非常に必要 2 <u>かなり必要</u> 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）	・将来、産業安全衛生の防護に問題が起こると思う。	
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）	・個人的な意見だが、講義は、研修員が基本的な知識を得るのに十分有効であるし、特にプログラムを変更する必要はない。	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
Mah Lok Bin Abdul'ah	マレーシア 1974	National Productivity Centre (N.P.C.)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
<u>1 十分有益</u> 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・研修プログラムの作成に役だった。 ・1979年の建築関係研修プログラムに建設安全の項目を開発した。 ・自分のコンサルタント業務に役だった。ー？	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	・フォローアップセミナーが必要 ・ニュースレター、人材派遣などを通じたフォローが必要
<u>1 非常に必要</u> 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）	・特に問題無し。	
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）	・講義だけではなくて、工場見学の数及びケーススタディーを増やして欲しい。	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Chan Mun Chow	マレーシア 1976	Factories and Machinery Dept.
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 <u>かなり有益</u> 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・セミナーに参加することによりいくつか他の国の研修員と意見交換がすることができた。また、日本人及び美しい日本という国に接することができた。しかし、日本でのこうしたセミナーへの参加がはじめてなこと、また、自分自身の語学力の問題、当時の日本の経済状況等から、安全衛生について、必ずしも満足のゆく成果は得られなかった。	
フォローアップの 必要度（質問8）	必要なフォローアップ の内容（質問9）	・安全衛生のテーマは変化しつづけるものであり、特に、日本における安全衛生の調査研究、開発の内容については、自分を含め、セミナーに参加した安全衛生推進担当者にとって、大変興味がある。日本は、先進国であり、安全衛生に長けた事業場も多くあることから、そうした日本の経験を多く学びたい。
1 非常に必要 2 <u>かなり必要</u> 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない	・開発途上国における職場の労働安全衛生上の問題については、深刻であり、マレーシアにおいても、急速な産業化に伴う諸問題の増加が著しい。ますます精巧（複雑な）な機械を導入している新しい産業や、より有害性の強い化学物質を使用している化学工場の職場においては、労働者にとって深刻な状況を与えている。	
セミナーをより有効 に実施する上での 改善意見等 （質問11）	・効果的に意見交換を行うこと ・豊富な安全衛生情報の提供 ・効果的討議及び安全衛生状況の良い事業場と悪い事業場の両方の見学を取り入れること ・特定の日本式労働安全衛生ケーススタディーを行うこと。	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
R. Mahathevan	マレーシア 1977	Medical Department
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 <u>2 かなり有益</u> 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	当時として最新の動向や有用な設備の情報を得た。	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
1 非常に必要 2 かなり必要 3 何とも言えない <u>4 それ程必要ない</u> 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）	・ 法制の整備の必要性	
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）		

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Keh Song Hock	マレーシア 1980	Hospital Besar
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
<u>1 十分有益</u> 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・セミナー参加当時、ちょうど国内で全国化学評議会の労働衛生小委員会が、国内における労働衛生の状況に係る報告をまとめているところであり、セミナーで得た知識が、本小委員会の場での討議に役だった。	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
<u>1 非常に必要</u> 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない	・日本か研修員派遣国でフォローアップセミナーを行って欲しい ・日本から専門家を派遣して欲しい。 ・最新の労働安全衛生に係る情報を定期的にニュースレターで紹介して欲しい。	
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）		
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）	・フォローアップセミナーをもっと頻繁に行って欲しい。 ・最初のフォローアップは、研修員が帰国して2～3年以内に実施して欲しい。	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Zakaria B. Nanyan	マレーシア 1982	Factories and Machinery Dept.
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 <u>かなり有益</u> 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・ 職場における安全衛生上の管理監督について得た知識が役だった。	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	日本の安全衛生に係る情報及び統計
1 非常に必要 2 <u>かなり必要</u> 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）	中小企業の安全衛生の推進が困難	
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）		

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Ridzwan Binhaji Hussain	マレーシア 1984	Factories and Machinery Department
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
<u>1十分有益</u> 2かなり有益 3何とも言えない 4あまり有益でない 5全く有益でない	・安全衛生における問題解決の実例、特に、安全衛生管理、研修機械安全について参考になった。	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
<u>1非常に必要</u> 2かなり必要 3何とも言えない 4それ程必要ない 5全く必要ない	・帰国研修員のjob description ・技能開発	
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）	トップマネジメントに安全衛生の重要性の認識が欠けている。	
セミナーをより有効	研修員同志及び研修員と主催者と密接な交流を行うことにより、お互いの意志疎通を図ること。 事業場の安全推進技法・方法を理解させること。	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Ton Jaafar Bin Ton Omar	マレーシア 1985	Factories and Machinery Department
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・労働安全衛生の知識を幅広く学ぶことができ、自国でのいくつかの問題解決の助けとなった。	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
1 非常に必要 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない	・先進国における労働安全衛生推進上の新しい動きを帰国研修員に情報提供して欲しい。	
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）	・官民双方の安全衛生専門官の教育	
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）	・セミナーは、問題解決技法的な方法によるのが望ましい。 ・安全衛生が十分に推進されていない小企業の視察をもっと増やして欲しい。	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
Zainuddin B. Abdullian	マレーシア 1986	Factories and Machinery Department
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働災害防止のために企業へサポートをする上で ・ 安全委員会の設置に関して ・ 危険の確認について ・ 管理監督者レベルの安全衛生研修を指導する上で 	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
1 非常に必要 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）		
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修員が熱心に参加できるように、ロールプレイを取り入れて欲しい。また、労働安全衛生に関して、どういった事柄が議論されるべきか講師から示されればありがたい。 	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Daud Sulaiman	マレーシア 1987	Factories and Machinery Department
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
<u>1 十分有益</u> 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	行政セミナーのテキストを1988年3月に開催したセミナーで使用できた。	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
<u>1 非常に必要</u> <u>2 かなり必要</u> 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない	帰国後、その成果を生かすことに関し、いろいろ問題を抱えている。	
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）		
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）	研修員は、研修中にさまざまな問題を提議すべき	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Chan Chee Lan	シンガポール 1974	Department of Industrial Health (MOL)
セミナーに関する意見、要望等 (質問4、5、6、8、9、10、11関係)		
有益性 (質問4)	質問4回答の根拠 (質問5、6)	
1 十分有益 2 <u>かなり有益</u> 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・他の国、特に日本の安全衛生の状況がわかったこと。	
フォローアップの 必要度 (質問8)	必要なフォローアップ の内容 (質問9)	
1 非常に必要 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 <u>それ程必要ない</u> 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を 推進してゆく上での 問題点 (質問10)		
セミナーをより有効 に実施する上での 改善意見等 (質問11)		

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
Choy Chan Pong	シンガポール 1975	Department of Industrial Safety (NOL)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
<u>1 十分有益</u> 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・労働災害防止に係る自分の業務に関してセミナーで得た情報、知識が役にたった。 ・新しい労働安全の法律の草案作成にも、同様に役に立った。	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
<u>1 非常に必要</u> 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）	・高年齢労働者問題 ・中小企業問題 ・外国人労働者問題	
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）		

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
Harry Wong Kok Choy	シンガポール 1977	Department of Industrial Safety (MOL)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・日本の安全行政や、安全衛生の最も高レベルの事業場視察	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
1 非常に必要 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）		
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）		

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Ng Tong Leng	シンガポール 1978	Department of Industrial Safety (MOL)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない		
フォローアップの 必要度（質問8）	必要なフォローアップ の内容（質問9）	
1 非常に必要 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を 推進してゆく上での 問題点（質問10）		
セミナーをより有効 に実施する上での 改善意見等 （質問11）	・ 講義が英語でなされれば、より効果があがる。 ・ 中小企業の工場視察をしたい。	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Amecrail Abdeali	シンガポール 1979	Department of Industrial Safety (MOL)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 <u>かなり有益</u> 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・産業安全衛生に係る討議が十分行えたこと。 ・工場見学が興味深く有益であった。	
フォローアップの 必要度（質問8）	必要なフォローアップ の内容（質問9）	
1 <u>非常に必要</u> 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない	・ニュースレターによる産業安全にかかる情報提供 ・セミナー開催	
自国で安全衛生を 推進してゆく上での 問題点（質問10）		
セミナーをより有効 に実施する上での 改善意見等 （質問11）		

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Leong Shui Hung	シンガポール 1980	Department of Industrial safety (MOL)
セミナーに関する意見、要望等(質問4、5、6、8、9、10、11関係)		
有益性(質問4)	質問4回答の根拠(質問5、6)	
<u>1十分有益</u> 2かなり有益 3何とも言えない 4あまり有益でない 5全く有益でない		
フォローアップの 必要度(質問8)	必要なフォローアップ の内容(質問9)	
<u>1非常に必要</u> 2かなり必要 3何とも言えない 4それ程必要ない 5全く必要ない		
自国で安全衛生を 推進してゆく上での 問題点(質問10)		
セミナーをより有効 に実施する上での 改善意見等 (質問11)		

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Peh Beng Hong	シンガポール 1981	Department of Industrial Health (MOL)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 <u>かなり有益</u> 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない		
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
1 非常に必要 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 <u>それ程必要ない</u> 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）		
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）	工場見学を増やして欲しい。	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
Dr. Magdalene Chan Oi Yoke	シンガポール 1983	Department of Industrial Health (IHL)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
<u>1 十分有益</u> 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・日本における労働衛生の推進及び法的規制を学ぶ事ができたこと	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	日本における最新の労働安全衛生の方針及び推進状況の情報提供
<u>1 非常に必要</u> <u>2 かなり必要</u> 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）		
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）	・講義は英語で行うべき。そうすればより深く幅広い討議・質疑が成される。 ・工場見学に関しては、セミナーが開始される前に、研修員に業種等の希望を聞き、選択されることが望ましい。	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
Mohd Nasser Bin Mustapha	シンガポール 1984	Department of Industrial Safety (MOL)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
<u>1 十分有益</u> 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・日本において、ロボット等ハイテクノロジーを使用した事業場の安全対策を勉強できた。 ・日本の企業における、安全のライン管理による功績を勉強できた。	
フォローアップの必要度（質問8） <u>1 非常に必要</u> <u>2 かなり必要</u> 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない	必要なフォローアップの内容（質問9） ・過去の研修員に、職務に関連した他の研修コースやセミナーを受けられるようにすること。特に前に受けた研修より高度なコースが望ましい。	
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）	・造船業等における外国人労働者問題 ・新技術における有害化学物質問題	
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）	・さまざまな業種の工場見学を増やすこと ・ケーススタディーの導入	

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現 職
Go Heng Huat	シンガポール 1985	Department of Industrial Safety (MOL)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 <u>かなり有益</u> 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・産業安全衛生における問題に対する日本の問題解決手法の理解	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	・工場見学を増やすこと ・事業場での現場実習
1 非常に必要 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 <u>それ程必要ない</u> 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）		
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）		

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
Hashim Bin Mansoor	シンガポール 1987	Department of Industrial Safety (MOL)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
<u>1 十分有益</u> 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・産業安全推進にかかる日本の総合的な対策を理解できたこと	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
1 非常に必要 2 かなり必要 <u>3 何とも言えない</u> 4 それ程必要ない 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）		
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）		

帰国研修員氏名	国名・参加年度	現職
Low Poh Huat	シンガポール 1988	Department of Industrial Safety (MOL)
セミナーに関する意見、要望等（質問4、5、6、8、9、10、11関係）		
有益性（質問4）	質問4回答の根拠（質問5、6）	
1 十分有益 2 かなり有益 3 何とも言えない 4 あまり有益でない 5 全く有益でない	・日本が労働者の安全衛生を重視していること、また、中災防はじめ民間団体が、安全衛生の推進に大きく貢献していることがわかったこと。 ・他国の安全衛生技術者と会うことができ、意見交換などできたこと。	
フォローアップの必要度（質問8）	必要なフォローアップの内容（質問9）	
1 非常に必要 2 かなり必要 3 何とも言えない 4 それ程必要ない 5 全く必要ない		
自国で安全衛生を推進してゆく上での問題点（質問10）	・高年齢労働者問題 ・労働者の健康管理を推進する上での事業場における施設の欠如	
セミナーをより有効に実施する上での改善意見等（質問11）	・製造工場や、中小企業の視察の他に建設現場及び造船業の視察がしたい。	

労働安全衛生行政セミナーは、昭和49年以来、世界42ヵ国の開発途上国からこれまでに255名の研修員を受け入れ、これらの国々の労働安全衛生行政職員の人材育成に寄与してきている。

今回のフォローアップにより、パプア・ニューギニア、マレーシア及びシンガポールの合計18名の帰国研修員をはじめ、これらの国における労働安全衛生行政の幹部と面談する機会を得たが、これらを通じて帰国研修員の活躍状況や労働安全衛生行政セミナーに対する高い評価を知ることができた。

今回得られた調査結果をもとに、労働安全衛生行政セミナーの研修員受け入れ事業及びフォローアップ事業に関して次のような提言をしたい。

(1) 研修内容に関する提言

現在実施されている研修内容については、3ヵ国の帰国研修員及び関係者から高い評価を得ているが、より一層効果の大きいものとするために、講義の効率化、AV機器の一層の活用、工場視察時における研修員の関心のある工場の選択・研修員相互の討議を含め、より研修員のニーズに応じた内容としていくべきであろう。

なお、セミナーの設定については、安全と労働衛生のコースを分ける、という意見もあったが、安全行政と労働衛生行政は共通する部分が多いこと、昭和56年度に「労働衛生行政セミナー」として実施されたが、その後はまた元に戻していること、労働衛生については、昭和60年度から別途「産業医学集団研修コース」が設けられていること等から現行のままが良いと考える。

(2) フォローアップ制度の確立

日本における最近の安全衛生事情（労働災害の動向、課題、法令改正）、技術情報に関する刊行物、出版物を定期的に送付することは3ヵ国とも強く希望していた。日本の安全衛生関係の研究所、大学等の、英語版の刊行物の送付についても要望があった。これらについては、フォローアップの制度として確立させるべきである。

また、パプア・ニューギニアのように、労使の安全意識の高揚のためのキャンペーンやセミナー等の実施が必要であり、かつ、これらに必要な資料が不足している国に対しては、ポスター、リーフレット、OHPシート、スライドフィルム（英語のもの）及びAV機器の提供が効果的であり、その実施について検討する必要があると考える。

帰国研修員を対象とした上級コースの設置、現地におけるフォローアップセミナーの実施の要望については、その内容も含めて検討する必要がある。

今回のパプア・ニューギニア、マレーシア及びシンガポールに対するフォローアップにおいて、数々の有益な意見を聞くことができた。今回の調査結果が労働安全衛生行政セミナーの今後の一層の充実に役立てられれば幸いである。

最後に、今回のフォローアップに際して御協力を賜った現地の大使館及びJICA事務所の関係各位に対して感謝の意を表します。

6 特別講義の概要

(I) Current Topics on Industrial Safety and Health in Japan

Teruo ARAKAWA

1 Seventh Industrial Accident Prevention Plan (from fiscal 1988 through 1992 ;5-year plan)

(1) Aim of the Plan

Healthy and comfortable living of workers

Problems brought pending here and problems related new phases

(2) Problems for prevention of industrial accidents

High occurrence rate and large part of the total accident

Medium and small-scale enterprises, Construction, Machinery,

Tertiary industries, Aged workers

New technology

Health maintenance and promotion

(3) Target of the Plan

Reduction by about 30% in total number of industrial accidents

Five measures

(4) Promotion of major industrial accident prevention measures

Basic items.....Pre-evaluation, Hazard prediction activity

Medium and small-scale enterprises

Safety and health promoter

Promotion of activities in group

Tertiary industries.....Safety supervisor, Guidelines

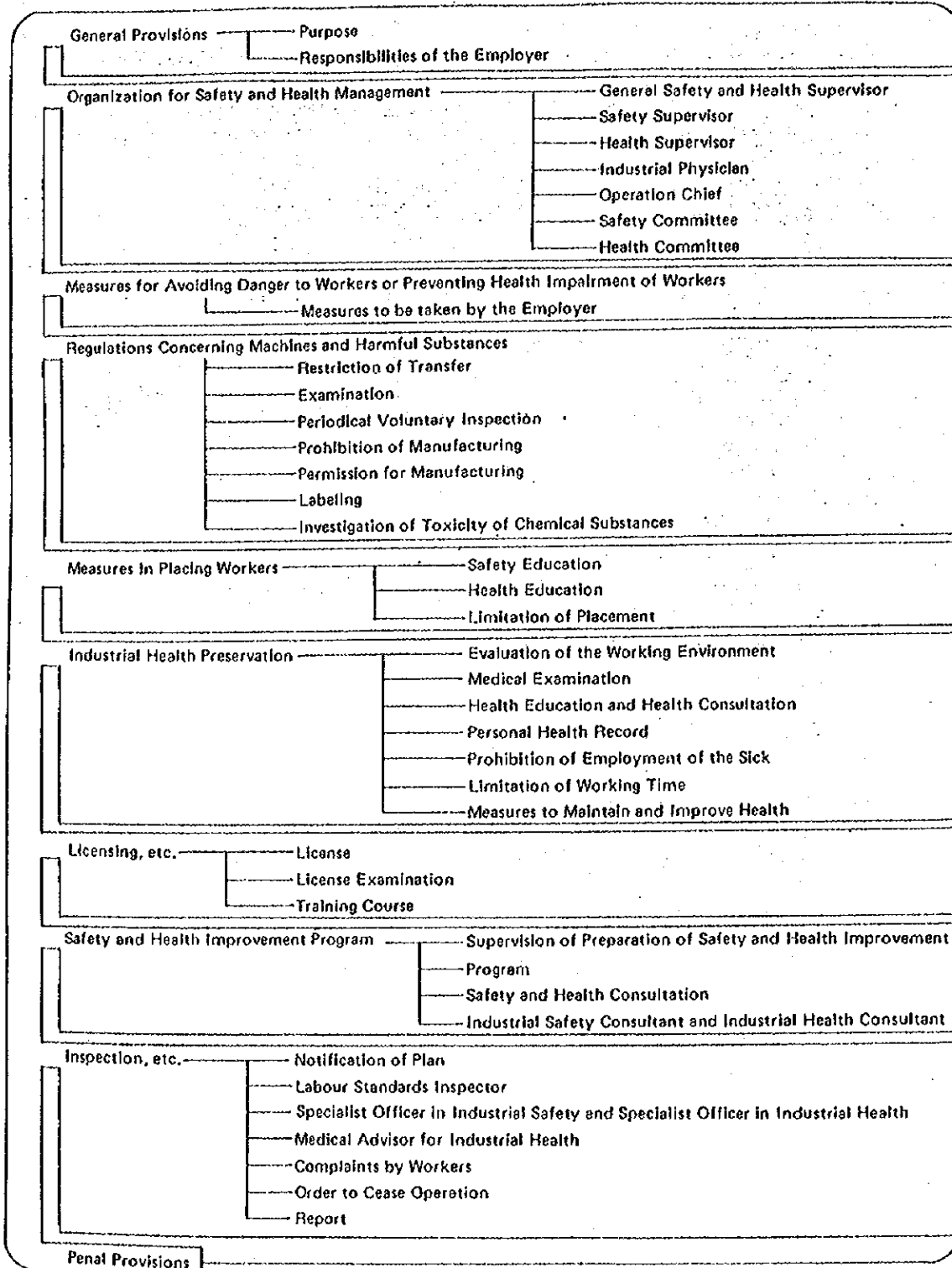
New technology.....Researches, Guidelines

Total Health Promotion Plan (THP)

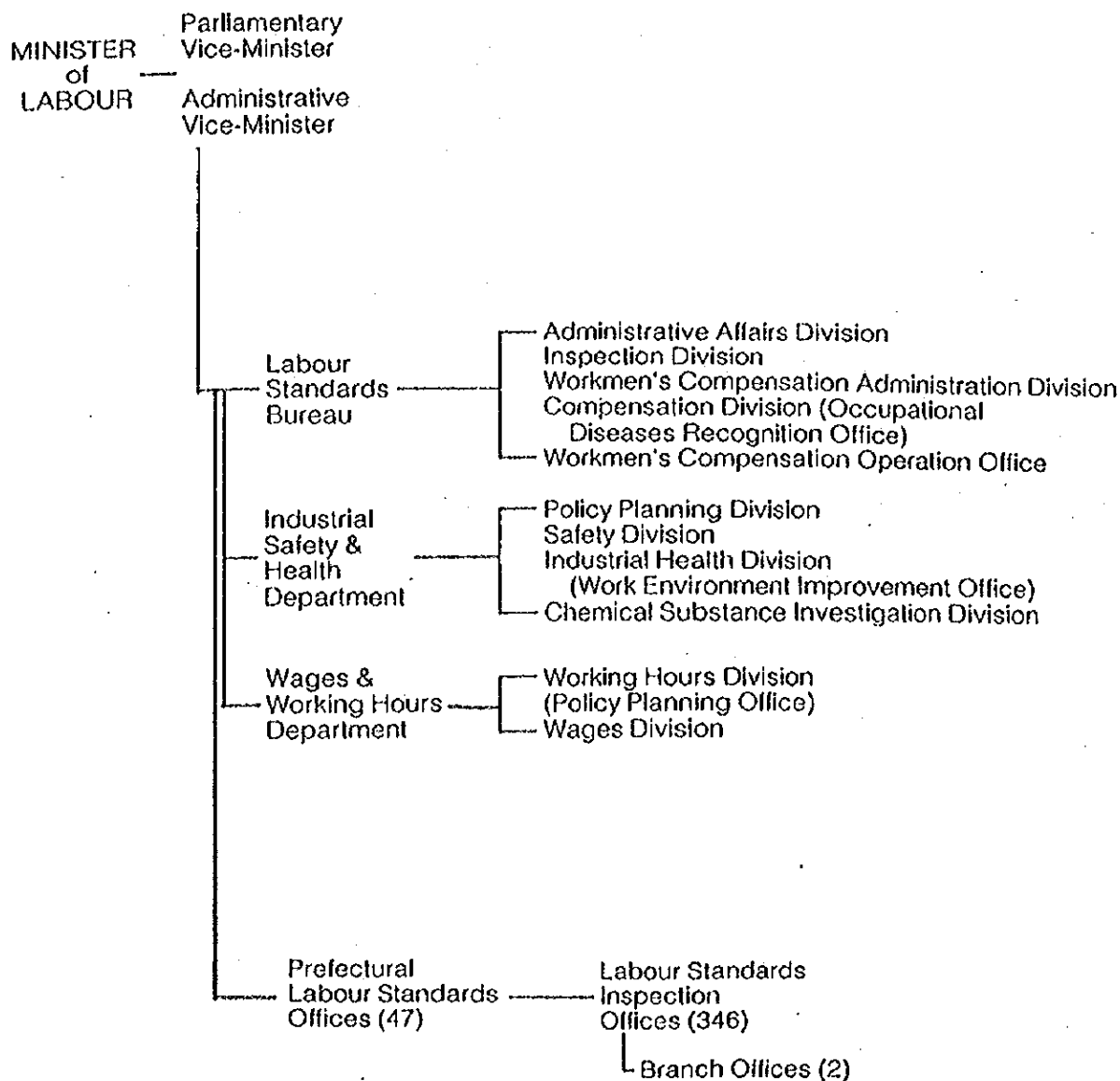
2 Urgent Plan against Industrial Accident (February 1989)

Urgent request by Labour Minister to the top managements of industrial safety and health associations and groups of enterprises etc.

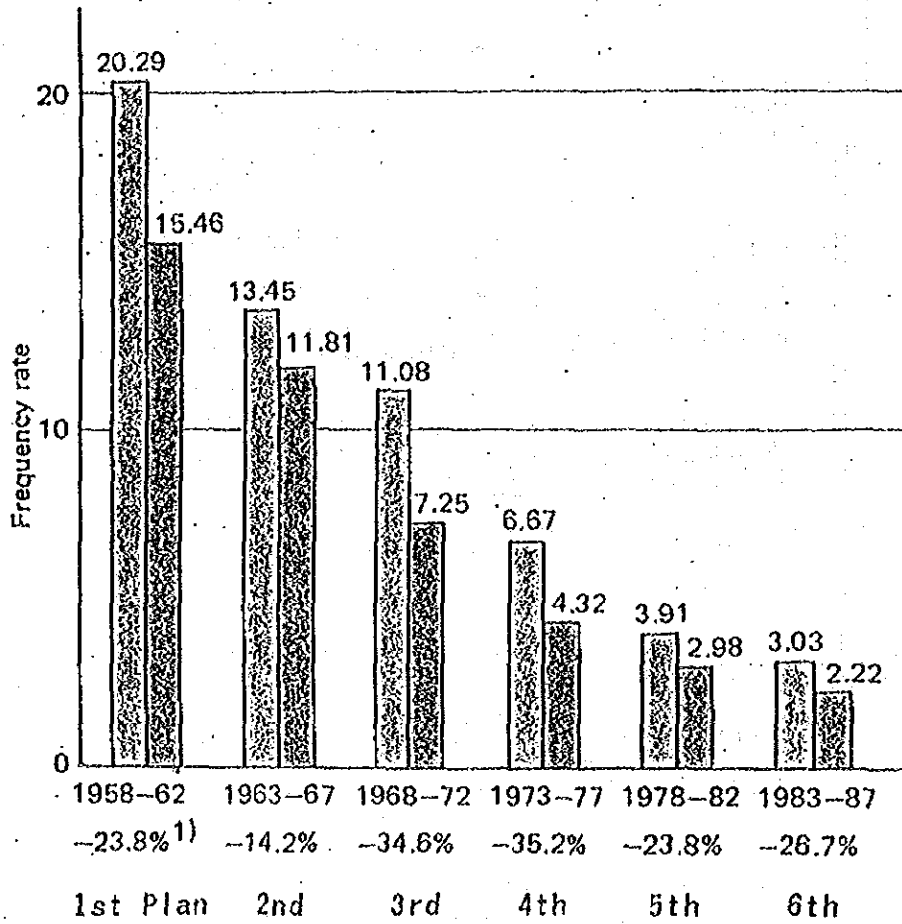
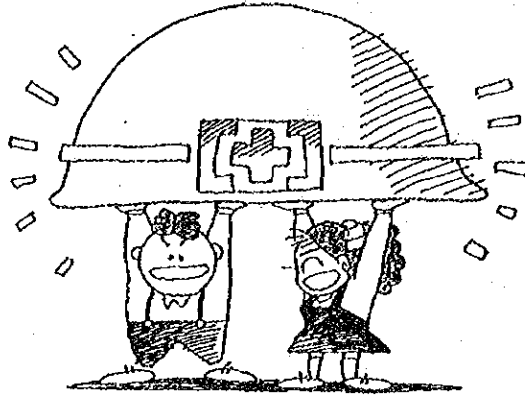
Outlines of the Industrial Safety and Health Law



Organizational Chart of Labour Standards Administration



Results of Each 5-year Plan



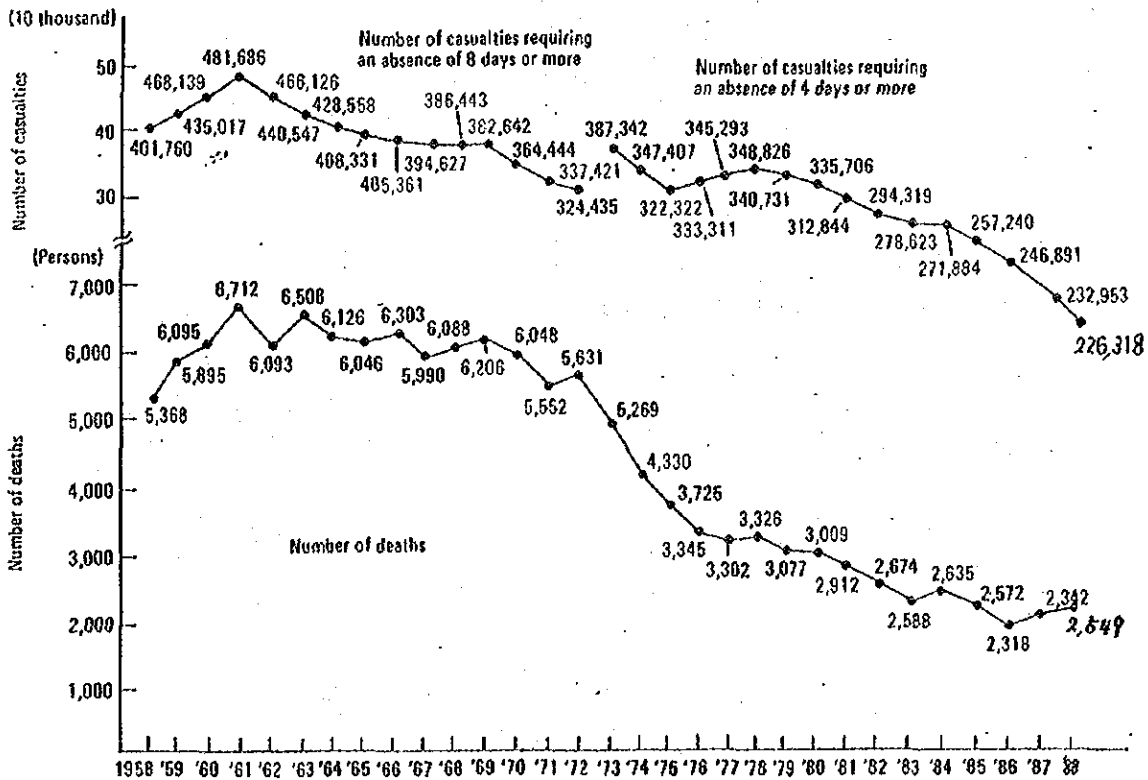
Note: 1) Percentage change over the previous year for the last year of the program.

The Seventh Industrial Accident prevention Plan

(Aiming at physically and mentally healthy and safe lives of working people)

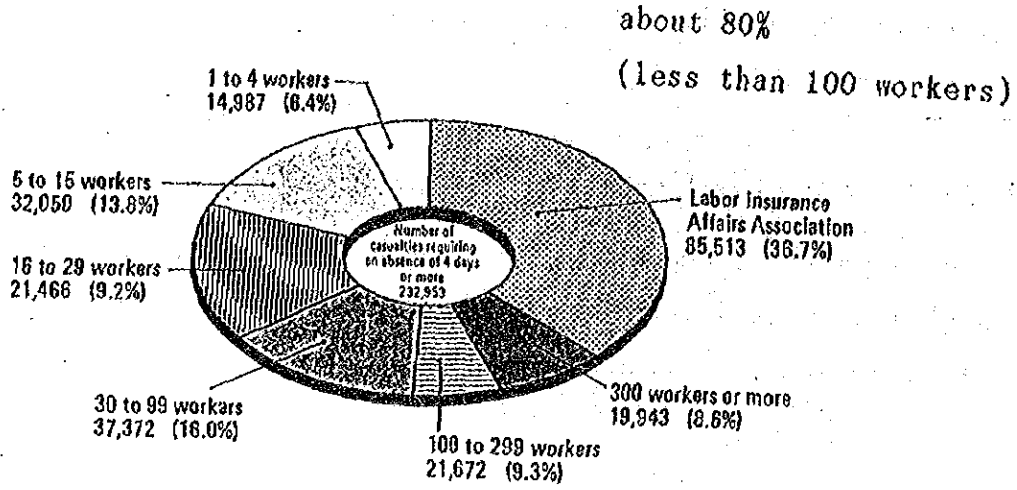
Trends of Industrial Accidents

Cases of industrial accident have decreased considerably. However, the number of casualties requiring an absence of 4 days or more now still amounts to approximately 230 thousands.



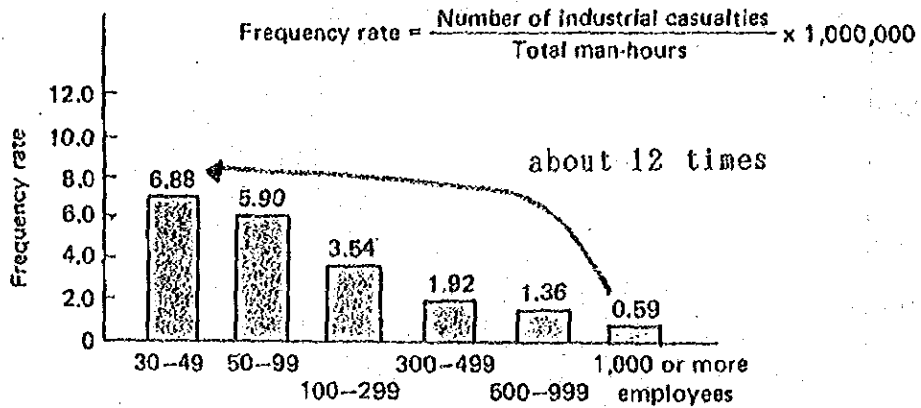
Changes in the Number of Casualties in All Industries

Casualties by Size of Business (1987)

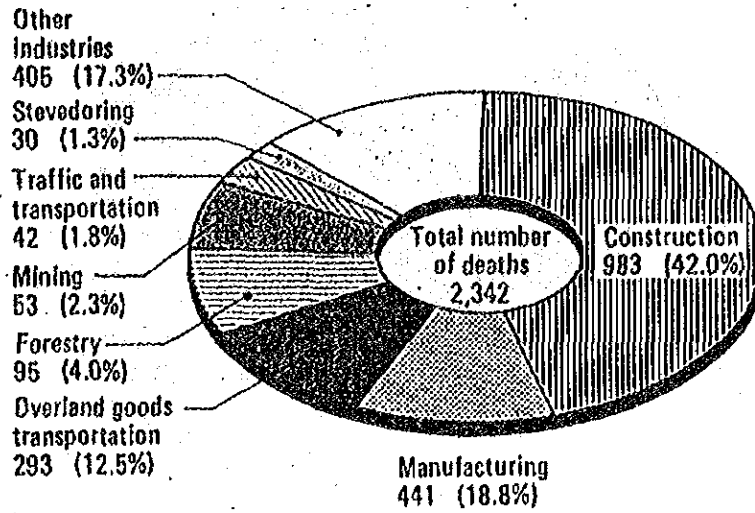


Note: Labor Insurance Affairs Association refers to the one stipulated under the Law Concerning the Collection of Premiums on Labor Insurance, etc.

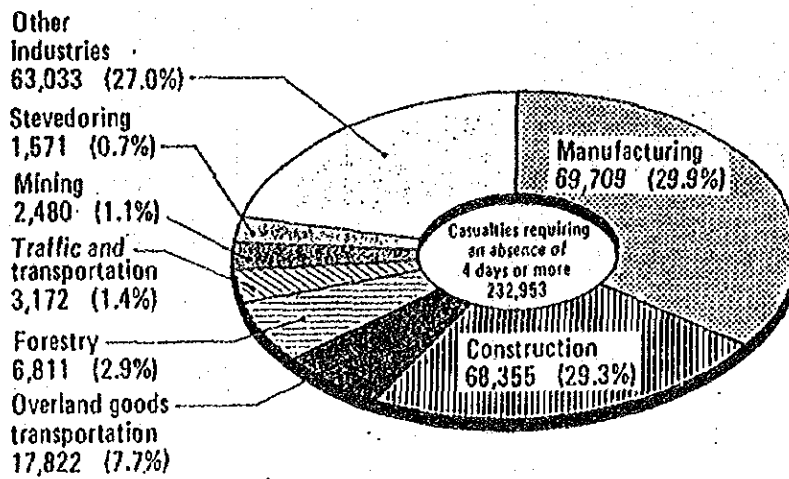
Frequency Rate by Size of Business in the Manufacturing Industry (1987)



Breakdown of Casualties by Industry (1987)

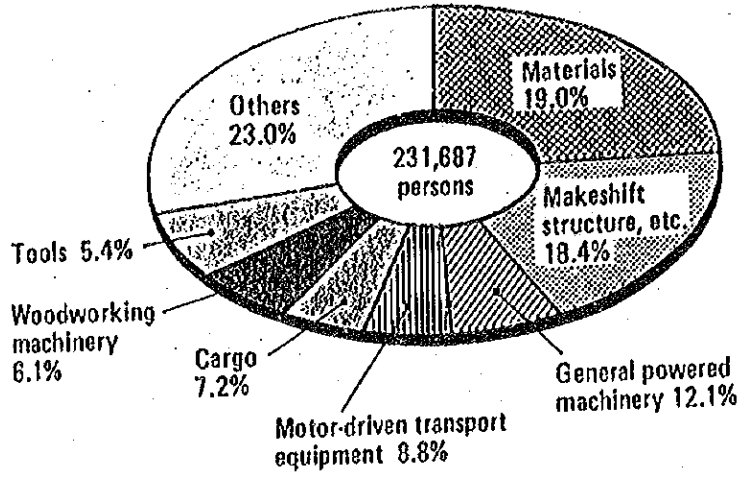


Industrial accidents in construction share about 40% of the total death cases.

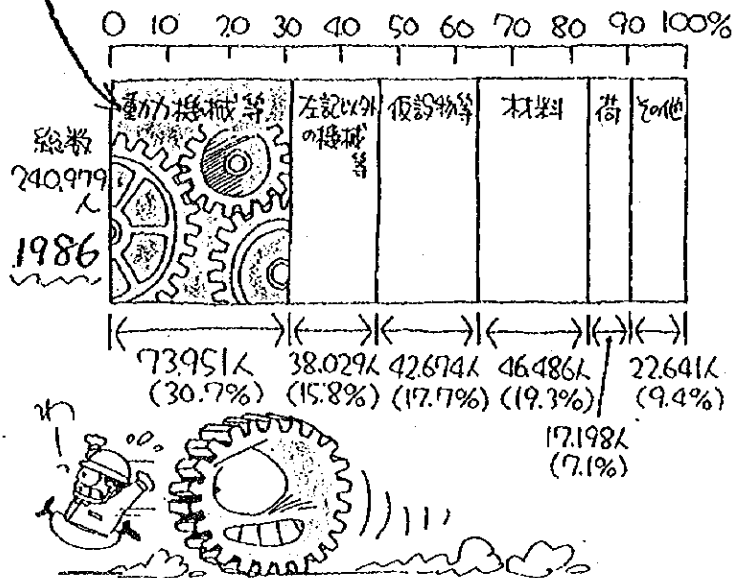


They share about 30% of total accidents.

Casualties by Cause (1987)

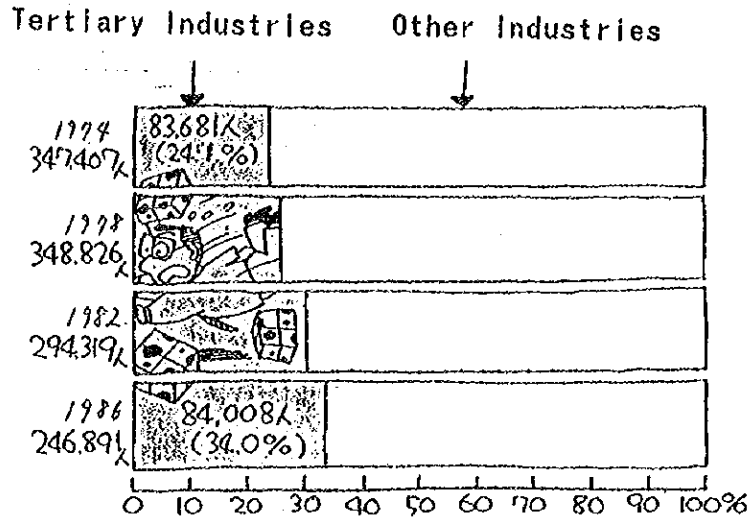


General powered machinery etc.



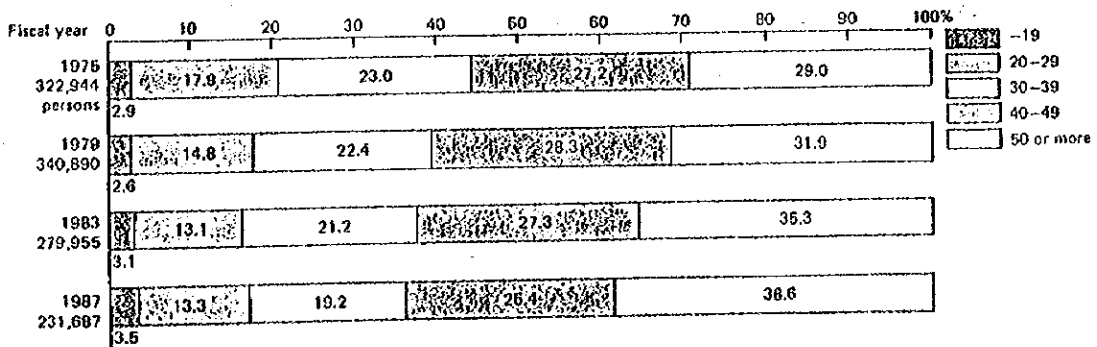
Industrial Accidents caused by Machinery share about 30% of all accidents.

Trends in the Number of Casualties in the Tertiary Industries



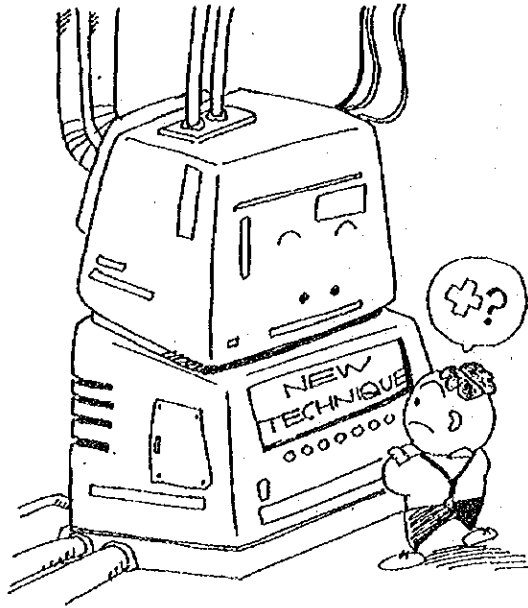
Accidents in the tertiary industries share more than 30% of all industrial accidents.

Trends in the Number of Casualties by Age



Share of suffered workers aging over 50 years in total number of industrial accidents exceeded 35% and it is now on a increasing trend.

New Technology

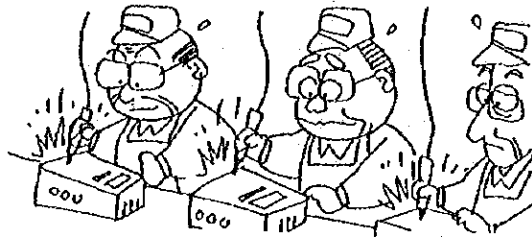


Development and introduction
of new technology

- Automatic machine
- Semi-conductor
manufacturing process
- VDT (Visual Display
Terminals; Word Processor,
Personal Computer)

Health Maintenance

the Society of
really aged population



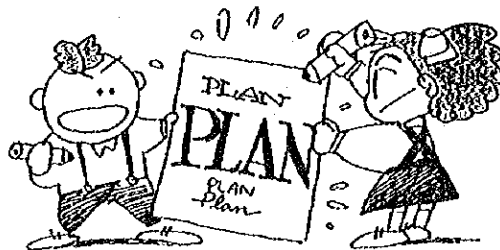
Increment of stress



The Target of the Plan

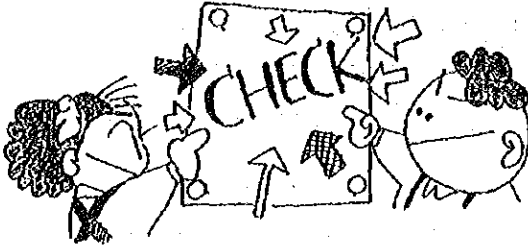
This plan aims at remarkable reduction in number of mortalities in accidents, serious accidents and occupational diseases, as well as at reduction by about 30% in total number of industrial accidents to ensure safety and health of workers. To attain these aims, emphasis will be given on the following measures:

- (1) Establishment of the pre-evaluation system relating to safety and health.
- (2) Promotion of positive health maintenance and increment measures for both mental and physical sides of the worker
- (3) Promotion of proper working environment control
- (4) Promotion of making machines and facilities safe
- (5) Promotion of safety and health activities in medium and small-scale enterprises



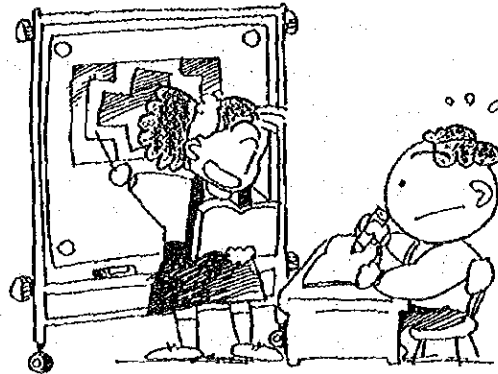
Promotion of Major Industrial Accident Prevention Measures

(1) Promotion of measures relating to basic items I-5-12

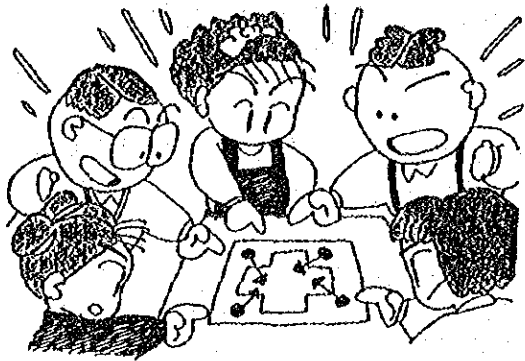


Pre-evaluation relating to safety and health

Safety and health education

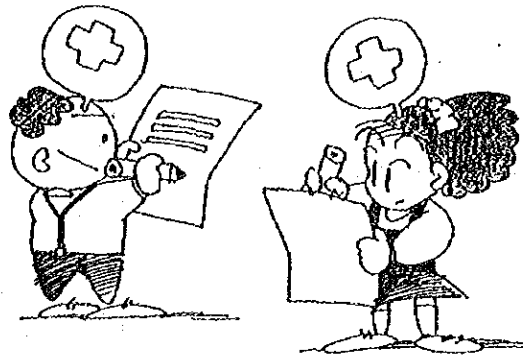


Safety and health consciousness in both management and labour



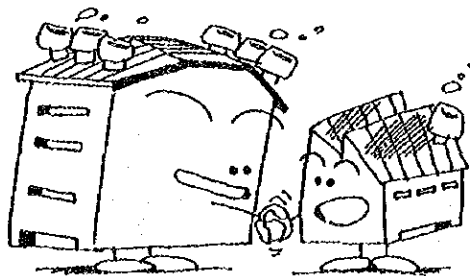
Hazard prediction activity

Improvement proposal system



[Improvement of safety and health management]

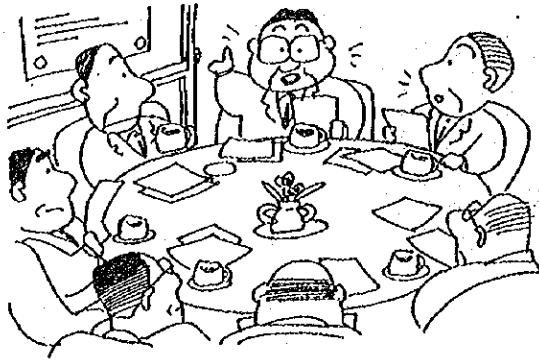
- (2) Promotion of Industrial Accident Prevention Measures in Medium and Small-scale Enterprises. I-5-15



[Appointment of safety and health promoter]

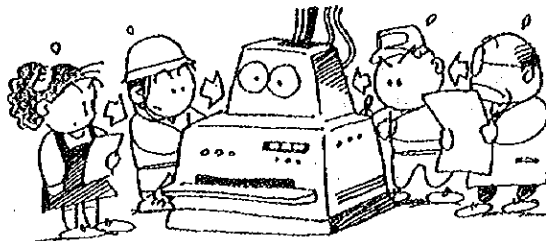
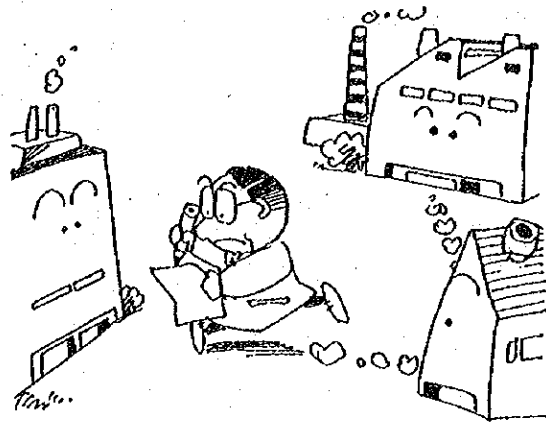
Activities in Group

Financial aid to groups (about 260 groups)

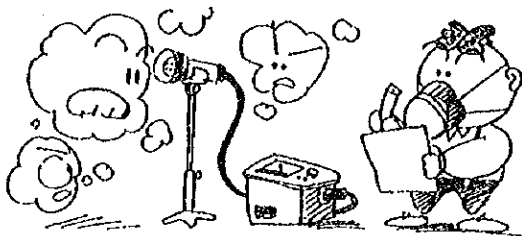


Comittee of top managements

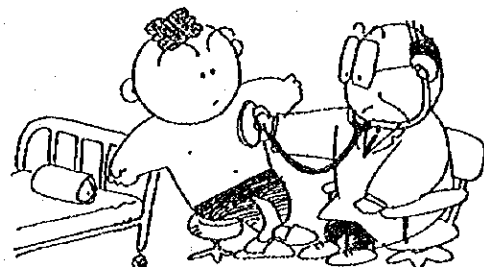
Consultation by specialist



Special voluntary inspection

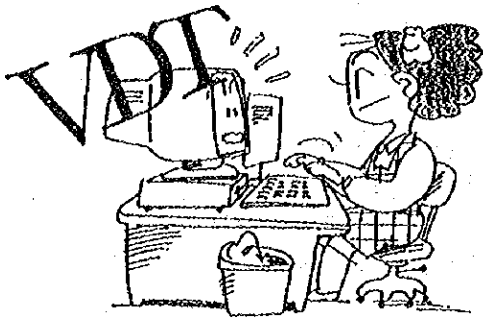


Environmental monitoring



Special medical check up

- (3) Promotion of Industrial Accident Prevention Measures According to Characteristics of Outdoor Type Industries such as Construction Work I-5-18
- (4) Promotion of Industrial Accident Prevention Measures Relating to Machines and Facilities I-5-20
- (5) Promotion of Industrial Accident Prevention Measures in tertiary industries I-5-21
 - a. Promotion of safety and health control activities
 - b. Promotion of spontaneous industrial accident prevention activities by group of employers concerned
 - c. Promotion of measures corresponding to complex and diversified employment and working forms
- (6) Promotion of Industrial Accident Prevention Measures for Aged Workers I-5-22
- (7) Promotion of Safety and Health Measures in Respect of New Technology I-5-22
 - a. Completion of pre-evaluating system
 - b. Completion of safety and health guide line
 - c. Completion of comfortable office environment



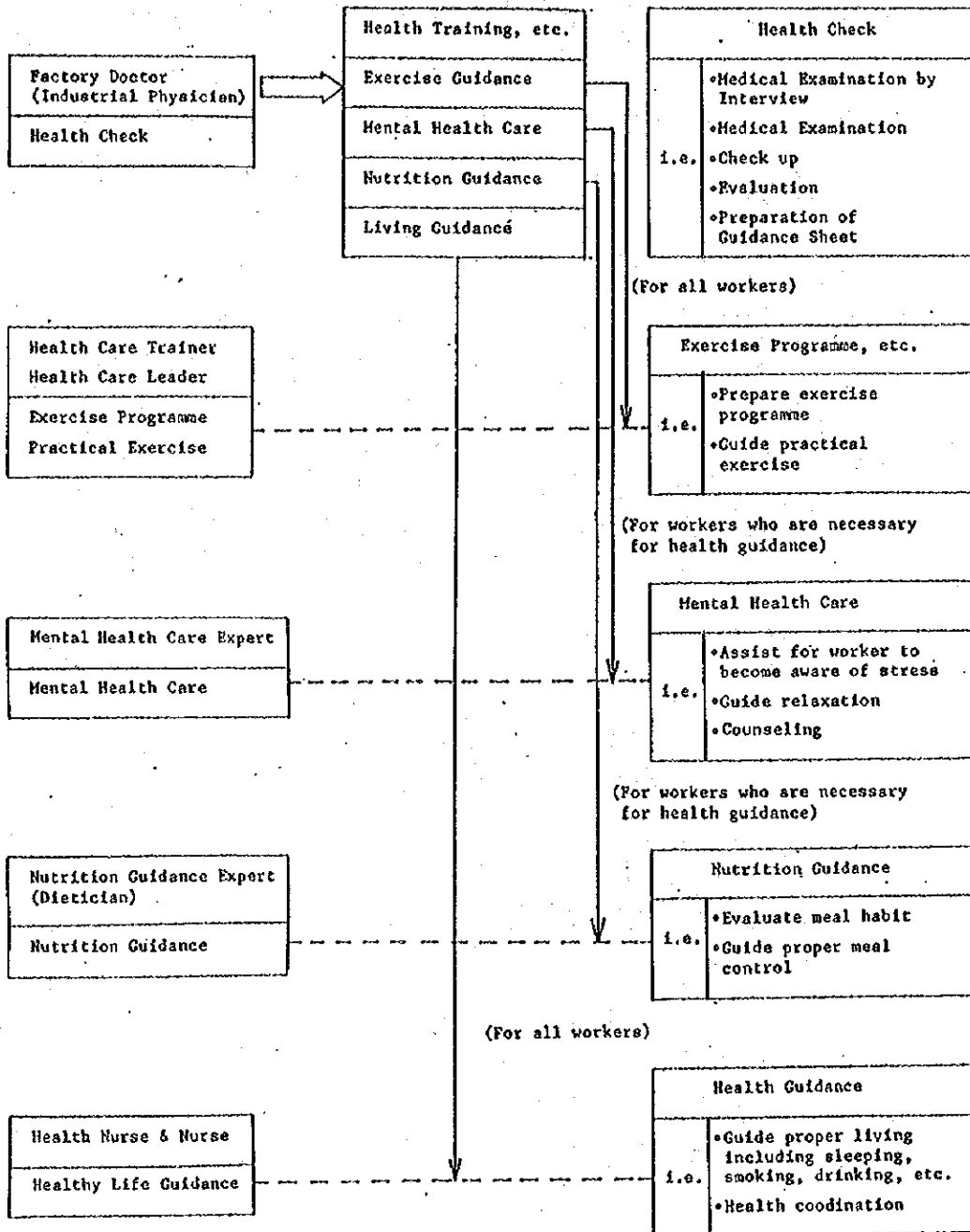
Guideline for VDT,
semi-conductor manufacturing process

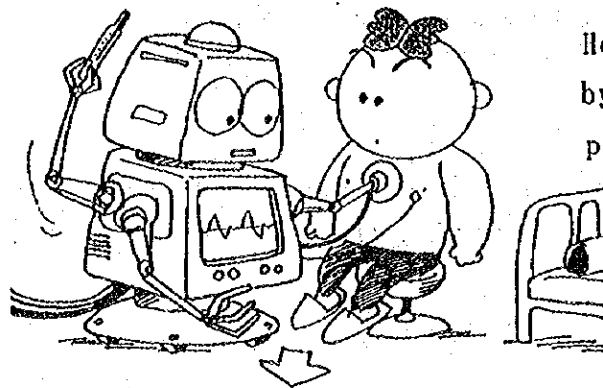
- (8) Promotion of Health Impairment Prevention Measures
such as Occupational Cancer I-5-24
- (9) Promotion of Occupational Disease Prevention
Measures I-5-24



(10) Promotion of Health Maintenance and Increment Measures I-5-27

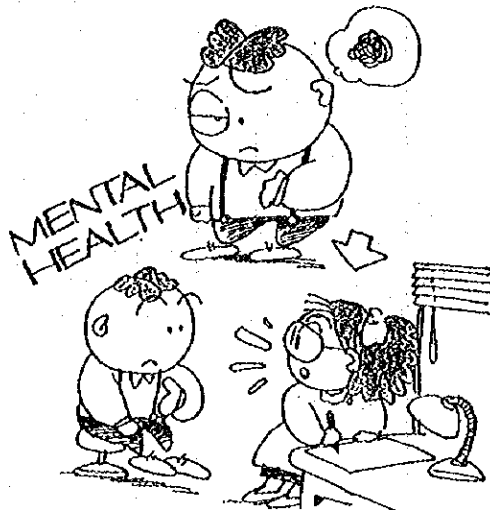
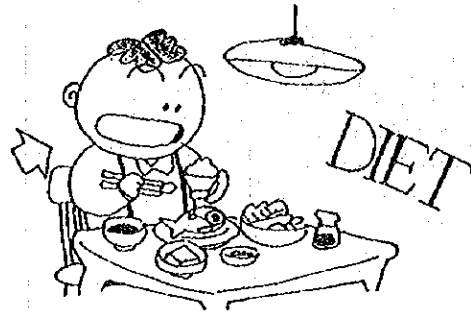
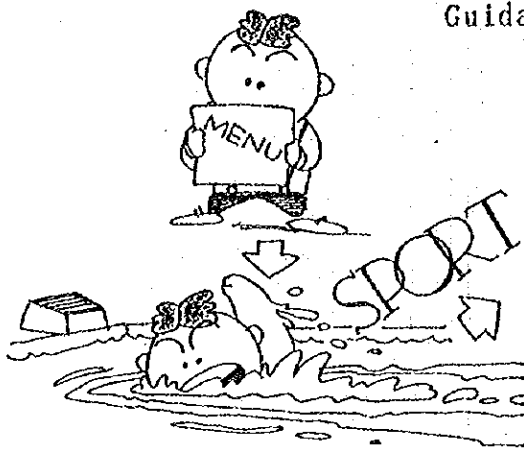
A Flow of Total Health Promotion in Factory





Health check
by industrial
physician

Guidances on exercise and healthy life



Urgent Plan against Industrial Accident

February 13th, 1989

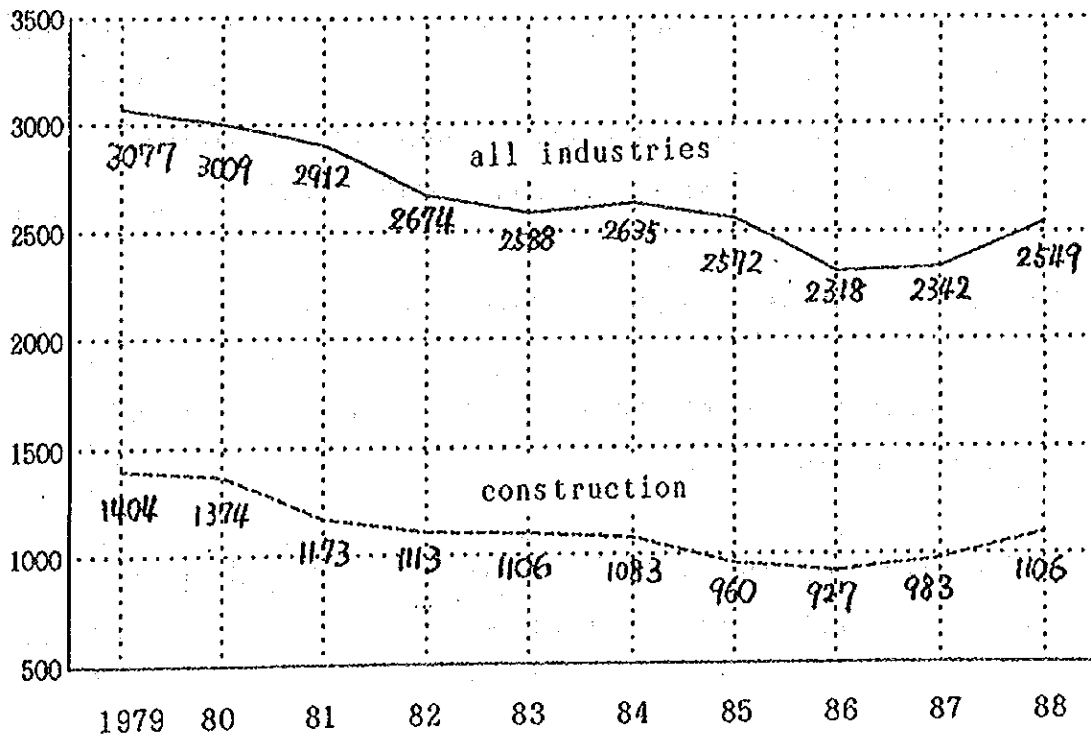
Ministry of Labour

○The number of industrial accidents has decreased considerably these two decades. However, in 1988 death cases by industrial accidents were 2,549.

This figure is 8.8%(207 persons) increase compared with that of the previous year.

○We intend to make a remarkable reduction in the number of mortalities by promoting the Seventh Industrial Accident Prevention Plan and the following Urgent Plan.

Trends of death cases



Contents of Urgent Plan

- 1 Establishment of Ad Hoc Committee for Prevention of industrial accidents
Labour Minister (Chairman)
Presidents of industrial safety and health associations
- 2 Urgent request by Labour Minister to the top managements of industrial safety and health associations and groups of enterprises
- 3 Inspection to construction sites by Labour Minister
- 4 Request to enterprises where serious accidents occurred and associations concerned
- 5 Carrying out nationwide Inspection to Construction, Transport, Forestry
- 6 Request for promotion of industrial accident prevention activities of industrial safety and health associations
- 7 Promotion of Safety and Health Education
- 8 Special Consultation on industrial safety for enterprises financed by national budget
- 9 Swift analysis of causes and countermeasures of industrial accidents and active public relations

(2)

What Zero-Accident Campaign Aims at

1. 3 Principal Philosophies - Spirit of Zero-Accident:

(1) Principle of Zero:

To aim at Zero-accident as the ultimate target.

(2) Principle of Preemptive Measure For Zero-Accidents:

To find out and eliminate potential causes for accident beforehand.

(3) Principle of Participation:

To be participated by all the employees from top management staff to workers.

2. 3 Principals of the Campaign Promotion - Realization of Participation by all the Employees:

(1) Top Management's Firm Determination:

Never to have irreplaceable subordinates hurt.

(2) Completeness of Line Management:

Safety management of the work place to be performed by the management supervisor as his fundamental duty.

(3) Vitalization of Voluntary Activities at Work Place:

To strive for the targets decided through discussion without any reservation.

3. What KYT (Hazard Prediction Training or Activity) means:

(1) Preemptive methods for Safety at Work Place Level (1978):

To achieve everybody's safe action by talking frankly, thinking together and understanding truly what is hazardous.

(2) Importance of Short-time KY:

To foresee the hazard promptly and accurately by all the team members. Short-time KY can only cope with the workplace hazard that varies from work to work.

(3) Birth of New KYT (1982):

To adopt the finger-pointing and calling confirmation method at every important position for security safety.

- (4) Everyday KY Practice and Pointing and Calling Confirmation at Every Important Position:
Everyday meeting, KY activity just before work commencement as well as pointing and calling confirmation at every important position increase sensitivity and concentration power of everybody toward hazards.

4. Positioning of KYT:

- (1) Hardware of Safety:
Making machines and facilities safe and fail-safe, etc.
- (2) Software of Safety:
Check and maintenance of machines and facilities, preparation of operation standards and training, etc.
- (3) Humanware (Human factor) for Safety:
Everybody's initiative - Starting point of KYT

5. Prevention of Accident due to Human error and Efficacy of KYT:

- (1) Enhancing Sensitivity against Hazard:
Feeling dangerous thing dangerous is the starting point.
- (2) Increasing Concentration Power at Every Important Position:
To eliminate accidents due to negligence and absent-mindedness by adopting finger-pointing and calling confirmation method.
- (3) Heightening Will for Safety:
Discussion without any reservation on what is dangerous generates initiative.

6. Creating a Workplace Climate Viable for Preemptive Prevention and Participation:

- (1) Relationship between Workplace Climate and Accident:
Occurrence of accident relating to sense of value, human relations and morale in the workplace.

- (2) Conditions for Everybody's Initiative that changes Climate of Workplace:
- a. Top management's determination for Zero-accident.
 - b. Leadership by example, as well as guidance and assistance at workplaces performed by the management supervisor of all line departments.
 - c. Discussion without any reservation held at the workplace.
- (3) Toward the safety activities of "Shame and Pride" from "Carrot and Stick" policy.

資 料

(1) PNG関係機関への報告書

Nov. 29, 1989

To whom it may concern :

Summarized Report on activities conducted in Papua New Guinea by Follow-up Team of Seminar on Industrial Safety and Health for ex-participants of JICA.

1. Objectives :

The Follow-up Team visits Ex-participants' organizations and related organs for the purpose of offering guidance through consultation.

Holding a seminar, evaluating the results of training in Japan and assessing problems and need in participants' countries as well as improving JICA's training programmes.

2. Period :

From Nov. 25, 1989 to Nov. 29, 1989

3. Members :

(1) Mr. Teruo Arakawa

The Expert Officer in Industrial Health,
Chemical Substance Investigation Division,
Ministry of Labour.

(2) Mr. Katsumi Kinoshita

Section Chief of Technical Cooperation, International Cooperation Department,
Japan Industrial Safety and Health Association.

(3) Mr. Takashi Shimokawara

Training Officer, Operations Division
Tokyo International Centre, Hatagaya (TIC. II)
Japan International Cooperation Agency.

4 Activities:

- Nov. 25(Sat.) Arrived in Port Moresby at 21:10 by CO-993 and met Mr Toshio Okazaki, Resident Representative, Papua New Guinea Office, JICA.
- Nov. 26(Sun.) Free (visit to various places of the city by the car of Mr. Toshio Okazaki.)
- Nov. 27(Mon.) Visit and meet with Miss Helen Baloiloi, Principal Staff Development Officer, Department of Labour and Employment (DLE), to confirm the schedule for this day.
- Visit Mr. James Gissua, Assistant Secretary, Industrial Relation Div., DLE, with Mr. Okazaki.
- Visit Mr. G. Tanabi Deputy Secretary, DLE, with Mr. Okazaki.
- Visit Mrs. A. K. Joel, Acting Secretary, DLE, with Mr. Okazaki.
- Visit Mr. Ron Silovo, Assistant Secretary, National Employment Service Div., DLE. At the same time, meet with Mr. Theo Anton, Project Manager for National Province Service.
- Visit Mr. George Vaso, Assistant Secretary, Labour Administration DLE.
- Nov. 28(Tue.) Visit to the Central Government Office Building to give special lectures (titles are shown in the end of this report) prepared by Mr. T. Arakawa, the team leader, and Mr. K. Kinoshita, the team member.
- The number of attendants amounts to 17 from various office of Papua New Guinea (names are listed in the end of this report).
- After the Special Lectures, Luncheon party was held under the auspice of Mr. Arakawa the team leader, to increase friendship among us. All the attendants of the lectures were cordially invited and attended.

Nov. 29 (Wed.) Visit to JICA Office to prepare the report to be submitted to the offices concerned.

Leave Port Moresby for Singapore at 16:00 by PX-092.

5. Comment in Summary:

- (1) Among ex-participants, we could meet with four (4) of them. We are very sorry to know that one of them have passed away. Through the meeting and discussions with them we could see their activities actually on the sites and obtain their needs to follow-up services as well as participation on this Seminar.
- (2) Through the interviews with ex-participants and the officials concerned, we understood strong necessity of this country to send a participant every year continuously.
- (3) We understood the various necessities and requirements for promotion of industrial safety and health, legally, educationally, socially and also at many other aspects of sides. All of these will be reported after our return to our country toward the authorities concerned in Japan.
- (4) We understood that ex-participants doing inspection needed a lot of aids and assistances from JICA. We the follow-up team of this seminar will report this situation to the authorities concerned in Japan after we go back to our country.
- (5) Materials (papers only) used at the Special Lectures, will be kept at JICA Office of this country so that anybody who needed them can obtain them.
- (6) We, the follow-up team of this seminar express a million thanks to the officials concerned regarding to our activities. Because of your assistances and kind helps extended to us, the purpose of our mission is fully attained.
- (7) We expect our friendly relation may continue forever.

Teruo Arakawa
Team Leader
Follow-up Team for
Seminar on Industrial Safety and Health, JICA

(2) マレーシア関係機関への報告書

Dec. 7, 1989

To whom it may concern :

Summarized Report on activities conducted in Malaysia by Follow-up Team of Seminar on Industrial Safety and Health for ex-participants of JICA.

1. Objectives :

The Follow-up Team visits Ex-participants' organizations and related organs for the purpose of offering guidance though consultation. Holding a seminar, evaluating the results of training in Japan and assessing problems and need in participants' countries as well as improving JICA's training programmes.

2. Period :

From Nov. 30, 1989 to Dec. 6, 1989.

3. Members :

(1) Mr. Teruo Arakawa

The Expert Officer in Industrial Health,
Chemical Substance Investigation Division,
Ministry of Labour.

(2) Mr. Katsumi Kinoshita

Section Chief of Technical Cooperation, International
Cooperation Department,
Japan Industrial Safety and Health Association.

(3) Mr. Takashi Shimokawara

Training Officer, Operations Division
Tokyo International Centre, Hatagaya (TIC, H)
Japan International Cooperation Agency.

4. Activities :

Nov. 30 (Thur.)

Arrived in Kuala Lumpur at 12:45 by SQ-108.

- Visit JICA Office at 2:50 and met by Mr. Y. Minato, Deputy Resident Representative, and Mr. Y. Sakai, Assistant Resident Representative at 3:20.
- Visit Japanese Embassy and met by Mr. S. Minura, First Secretary.
- Visit JICA Office again at 4:20 and met by Mr. K. Okabe, Resident Representative of JICA Office.

Dec. 1 (Fri.)

- Courtesy call to Mr. Azizan Ayob, Deputy Director of Public Services Department (PSD) at 8:30.
- Courtesy call to Mr. Sugunan Pillay, Deputy Director, Engineering Division, Ministry of Health at 10:30.

Dec. 2 (Sat.)

Preparation of Seminar.

Dec. 3 (Sun.)

Preparation of Seminar.

Dec. 4 (Mon.)

- Courtesy call to Mr. Harminder Singh, Deputy Director-General of Factories & Machinery Department at 9:00.
- Meet with five (5) ex-participants (Mr. Chan Mun Chow, Mr. Zakaria B. Nanyan, Mr. Ridzwan Hj. Hussain, Mr. Zainuddin Bin Abdullah, Mr. Jaafar Bin Ton Omar) at the presence of Mr. Harminder Singh.

- Met by Tuan Haji Abdul Jalil Mahmud, Director-General of Factories & Machinery Department.
 - Courtesy call to Mr. Mah Lok Abdullah, Assistant Director, with Mr. Abu Zaki Ahwad, Mr. Suhaimy Abd. Talib and Mr. Naotaka Sawada (Japanese Advisor).
- Dec. 5 (Tues.)
- Courtesy call to Mr. Asnan Bin Pi'i, Deputy Secretary-General of Ministry of Labour as well as President of JICA Alumni Society at 9:30.
 - Special Lectures (titles are shown at the end of report on Activities) were provided and given to ex-participants and government officials concerned at 14:00 o'clock at Anggerik Room of Hotel Equatorial.
 - Hi-Tea party was organized by the follow-up team at 16:40 at Hotel Equatorial toward the whole of the attendants of the Special Lectures.
- Dec. 6 (Thurs.)
- Visit to Malaysian Sheet Glass Company with Mr. Haminder Singh, Deputy Director-General of Factories & Machinery Department.
 - Report to Embassy of Japan and JICA Office.
- Dec. 7 (Fri.)
- Leave Kuala Lumpur by SQ-105 at 10:15 for Singapore.

5. Comments in Summary :

- (1) Among ten (10) ex-participants of Seminar on Industrial Safety and Health, we could meet six (6) ex-participants during our stay. Through meeting with them, we could see their activities and could obtain their proposals for improving this Seminar and could understand the needs to follow-up services on this Seminar.
- (2) The most of the ex-participants are assigned to important positions of their own organizations, which are directly or indirectly related to industrial safety and health. It is of the team's conviction that knowledges and ideas obtained in this Seminar are most cases applicable and useful in performing their work.
- (3) Although the Seminar they attended has been useful, they gave us the following opinions and suggestions for improving it.
 - a) More importance must be given to case studies.
 - b) At visits to factories, observation of the activities of industrial safety and health in the visiting factories must be given to the participants.
 - c) After visits to factories, review discussion must be made among participants as a curriculum of the Seminar.
 - d) Adoption of dolls for case study is to be considered.
 - e) After the Seminar, one or two week must be spent for individual case study at factories of ones own choice.
- (4) Suggestions of ex-participants for follow-up service are as follows :
 - a) Periodical dissemination of latest information must be given to ex-participants so that they can be familiarized with new administrative as well as technical trend in the field of industrial safety and health in Japan.

- b) Refresher course of which period is one or two weeks must be organized and offered to ex-participants.
- c) Taking contact with ex-participants is necessary in the form of sending news leaflets or periodicals regularly.

Finally, we would like to express our heartfelt gratitude to Tuan Haji Abdul Jalil Mahmud, Director-General of Factories & Machinery Department and Mr. Hanninder Singh, Deputy Director-General of Factories & Machinery Department for the kind arrangement prepared and given to us, and to all the ex-participants and officials concerned for their positive and kind support toward our activities in Malaysia. All of the opinions and information obtained here are to be reported to the authorities concerned in our country after we go back to Japan. We expect our friendly relation may continue forever.

* Titles of Special Lectures

- (1) Current Topics on Industrial Safety and Health in Japan
by Mr. T. Arakawa.
- (2) Zero Accident Promotion Campaign in Japan by Mr. K. Kinoshita.

Teruo Arakawa
Leader of Follow-up Team
for Seminar on Industrial
Safety and Health
JICA

(3) シンガポール関係機関への報告書

Dec 12, 1989

To whom it may concern :

Summarized Report on activities conducted in Singapore by Follow-up Team of Seminar on Industrial Safety and Health for ex-participants of JICA.

1. Objectives :

The Follow-up Team visits ex-participants' organizations and related organs in exchanging opinions, holding special lectures, evaluating the results of Seminar in Japan, assessing problems and finding needs in Singapore as well as improving JICA's training and seminar programmes for the betterment of the Seminar.

2. Period :

From Dec. 7, 1989 to Dec 13, 1989

3. Members :

- (1) Mr Teruo Arakawa
Expert Officer in Industrial Health,
Chemical Substance Investigation Division,
Ministry of Labour
- (2) Mr Katsumi Kinoshita
Section Chief of Technical Cooperation, International
Cooperation Department, Japan Industrial Safety and Health
Association.
- (3) Mr Takashi Shimokawara
Training Officer, Operations Division
Tokyo International Centre, Hatagaya (TIC,H)
Japan International Cooperation Agency

4. Activities

- Dec 7 (Thu)
- ° Arrived in Singapore by SQ-105 at 11:05, and met by Mr H. Ono, Assistant Resident Representative of JICA Office as well as Mr T Mizuno, Second Secretary of Embassy of Japan.
 - ° Briefing at JICA office at 12:00, with Mr H. Ono as well as Mr M. Ishizaki, Resident Representative of JICA Office.

- Dec. 8 (Fri)
- Courtesy call to Mr Lee Kat Yan, Assistant Director, Training Public Service Division, Ministry of Finance and Ms Yip Geok Kong, Executive Officer (Training), Public Service Division, Ministry of Finance
 - Courtesy call to Mr K Ueno, Consular of Embassy of Japan.
 - Courtesy call to Ministry of Labour and met by Mr Harry Wong, Head, Construction Branch, Department of Industrial Safety (DIS); Mr Tan Pui Guan, Head, General Factories Branch & Engineering Branch (DIS); Mr Ameerali Abdeali, Section Head, General Factories Branch (DIS); Dr Phoon Wai Hoong, Director, Department of Industrial Health (DIH); Dr Magdalene Chan Oi Yoke, Deputy Director (DIH); Mr Lian You Hin, Head, Occupational Safety & Health (Training & Promotion) Department, at 14.30. In this visit, the follow-up team was accompanied by Mr T Mizuno, Second Secretary of Embassy of Japan and Mr H. Ono, Assistant Resident Representative of JICA Office.
 - Seven ex-participants were joined in at 15:00. They are as follows: Mr Ng Tong Leng, Section Head, Engineering Branch (DIS); Mr Leong Shui Hung, Executive Engineer, Engineering Branch (DIS), Mr Low Poh Huat, Executive Engineer, Shipyard Branch (DIS); Mr Go Heng Huat, Assistant Executive Engineer, Shipyard Branch (DIS); Mr Hassim b Mansoor, Engineer, Construction Branch (DIS); Mr Shee Peng Seng, Engineer, Construction Branch (DIS).
- Dec 9 (Sat)
- Visit to DIS and explained about role and activities of Dept of Industrial Safety, by Mr Ameerali Abdeali.
 - Visit to Broadway Enterprises (Jurong) and accepted by Mr Lim Eow How, General Manager and by Mr Lee Khong Kee, Executive Director, this visit was arranged and made by DIS.
- Dec 10 (Sun)
- Free
- Dec 11 (Mon)
- Luncheon hosted by Ministry of Labour at 13:00
 - Special Lecture on "Current Topics on Industrial Safety and Health in Japan" by Mr T Arakawa, the team Leader was made at 14:30.
 - Special Lecture on "Zero Accident Promotion Campaign in Japan" by Mr K Kinoshita was made at 16:00
 - Friendship party hosted by the Team was made at 19:30 at Ruyi Restaurant in Hyatt Hotel.
- Dec 12 (Tue)
- Report to JICA Office and Embassy of Japan
- Dec 13 (Wed)
- Leave Singapore at 9:00 by SQ-012 to go back to Japan

5. Comments in Summary :

- (1) Among fourteen (14) ex-participants, the Team could meet with ten (10) of them. Through meeting with them and officers of the related organizations, the Team could obtain their proposal for improving the Seminar and needs to follow-up services on the Seminar.
- (2) Out of fourteen (14) ex-participants, one of them has been resigned. All the thirteen (13) remaining ex-participants at Ministry of Labour are all assigned to important positions of the Ministry. It is the Team's conviction that the acquired knowledge through their participation in the Seminar is used and applied in their work.
- (3) Suggestions and opinions obtained all through the activities of the Team in Singapore as to improving the Seminar are as follows :
 - a) Lectures must be made in English because of preventing loss of time, misinterpretation, discontinuity of listener's interest and so on.
 - b) If lectures should be given by Japanese, an orientation for effective and accurate interpretation must be given to interpreters as well as to lectures.
 - c) In case when explanation is made by using over-head projector, paper projected must be copied and distributed so that participants don't have to memorize important figures on their notes. Otherwise participants will be too busy in taking notes to understand lectures.
 - d) Safety and Health must be separated and made independent courses.
 - e) There must be at least one factory visit for one's own interest among factory visits.
 - f) Factory visits must be made to various different sizes of factories.
 - g) On the job training as to inspector's work is necessary.
 - i) When visit to personnel training centre of Ministry of Labour is made observation of training scene for inspectors must be included.
 - j) More audio-visual equipments must be adopted and used.
- (4) Suggestions and opinions as to the follow-up activities are as follows :
 - a) English versions published by research or academic institutes regarding to Industrial Safety and Health are quite useful for ex-participants. If JICA can find the way for ex-participants to subscribe these publication it is quite helpful for them.

- b) It is quite advisable for JICA to continue contact with ex-participants by sending periodicals with new technical information.
- c) Applicants on the same conditions are sometimes rejected and sometimes accepted, so it is better standardize the way of selecting applicants in order to prevent loss of energy on both Japanese and Singaporean sides.

Finally, we the Team would like to express our heartfelt gratitude to Mr Lee Kat Yan, Ms Yip Geok Kong, Mr Harry K C Wong, Mr Ameeralli Abdeali, Mr Ng Tong Leng, Ministry of Labour; and all the remaining ex-participants, all the officers concerned. We wish that friendship among us may continue forever.

Teruo Arakawa
The Team Leader of
Follow-up for Seminar on Industrial
Safety and Health
JICA

(4) 帰国研修員アンケート調査表

Questionnaire on 'Seminar on Industrial Safety & Health'

For future reference for the preparation of the Seminar, please answer the following questions in English (in the block style) about your own activities, etc. We should be grateful if you could fill out this questionnaire and return it to us by 30th June.

1. Name _____

Year of Participation _____

Name and address of Organization, Department, Division, etc. to which you belong.

Your position at the place of work is equivalent to:
(Please encircle the relevant number.)

1. Department Head or higher
2. Division Head
3. Section Head
4. Ordinary Member of Staff
5. Others

2. Was your post or section changed after you participated in the Seminar and returned home? If so, please explain how it was changed referring to the content of work as well.

3. Are you actively engaged in the field of industrial safety & health at present?

(Please encircle the relevant number.)

1. Yes, I am.
2. No, not at present (I was actively engaged in it foryears after taking part in the Seminar)
3. No, I am not. (I did not have any chance to play an active part in that field after participating in the Seminar.)

4. How much has the Seminar proved to be helpful to you
(Please encircle the relevant number.)
1. Sufficiently helpful
 2. Fairly helpful
 3. Hard to say which
 4. Not necessarily helpful
 5. Not at all helpful
5. If you have replied to the question 4 above that the Seminar has been helpful, please give us some concrete examples showing how it has been helpful.
6. If you have replied to the question 4 above that the Seminar has not been helpful, please state briefly the reasons why it was not helpful.
7. In your country, do you have alumni meetings and exchange of information, etc. among those who once participated in the Seminar?
(Please encircle the relevant number.)
1. Yes, we do. (So far we have had such meetingstimes)
 2. No, we do not.

8. Is it necessary for us to do some kind of follow-ups for those who participated in the Seminar?
(Please encircle the relevant number.)

1. Very necessary
2. Fairly necessary
3. Hard to say which
4. Not so much necessary
5. Not at all necessary

9. If you have replied to the question 8 above that the follow-ups are necessary, please give us some examples indicating what kind of follow-ups are desirable.

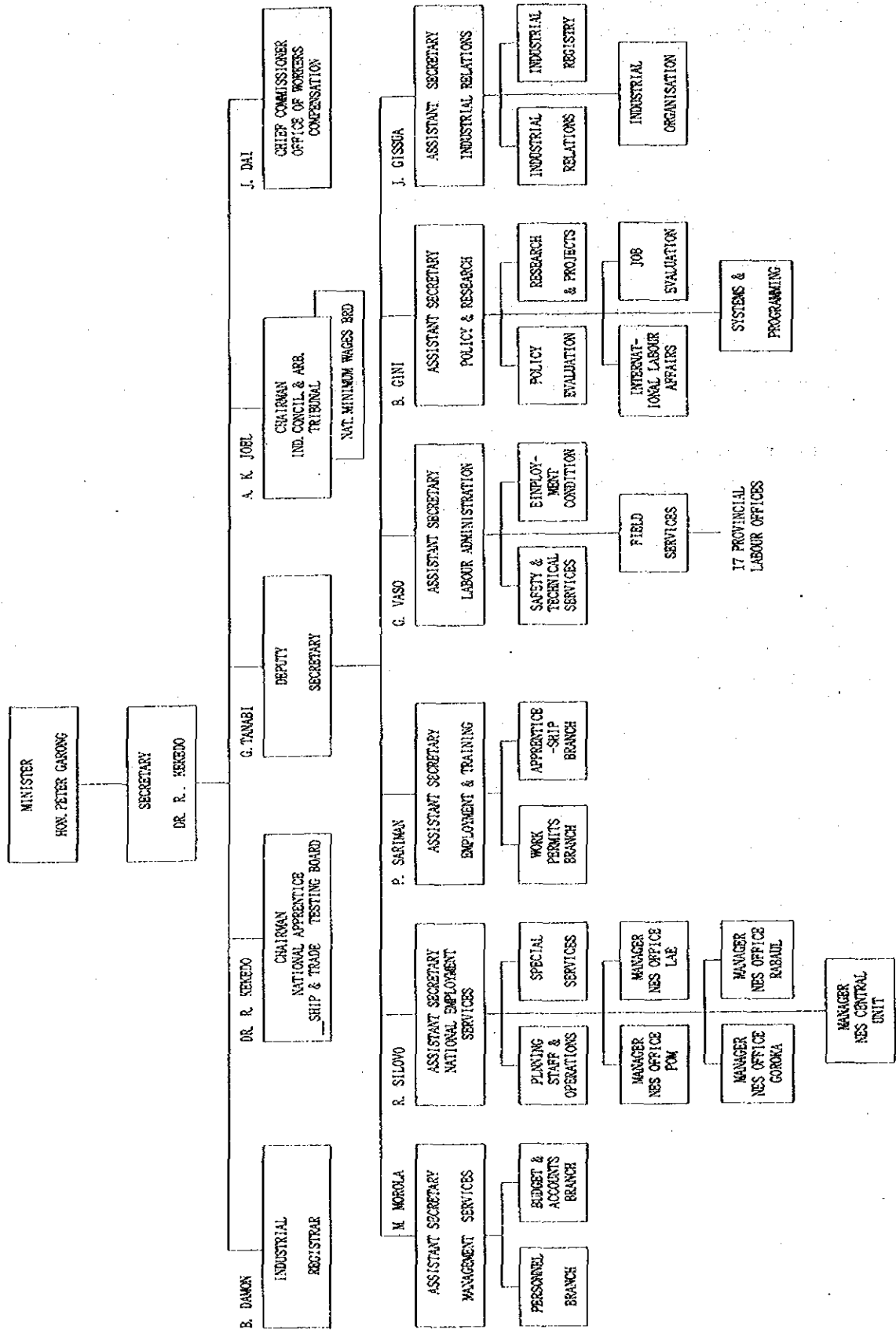
10. If there are any problems in the promotion of Industrial Safety and Health for the future, please state them briefly.

11. In order to make the Seminar more practically effective, what kind of improvements are required to be made? Please state your opinions.

* In case your address changes in future, please write and let us know.

Thank you very much for your cooperation.

(5) パプアニューギニア労働雇用省組織図



(6) マレーシア総理府・人事院組織図

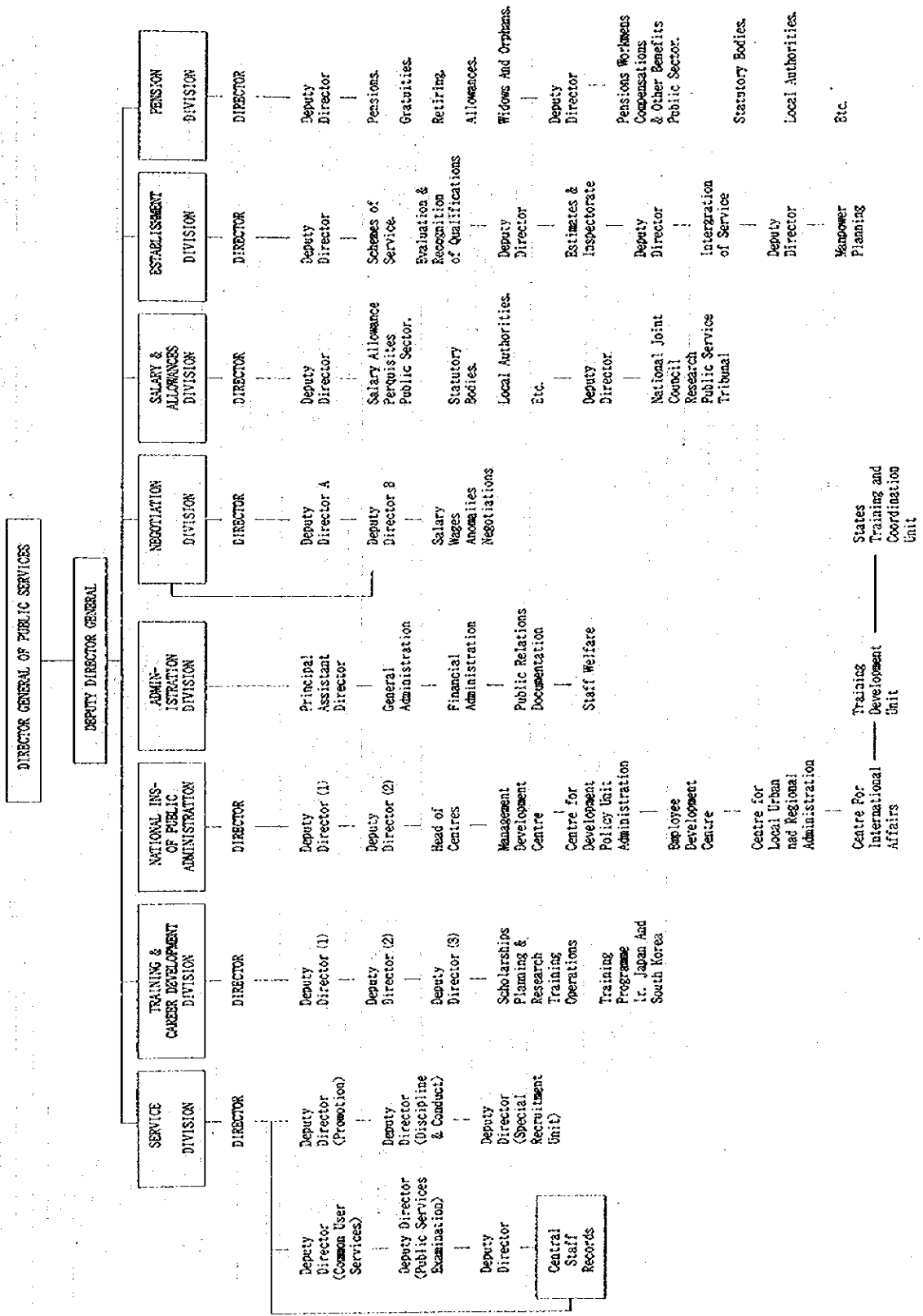
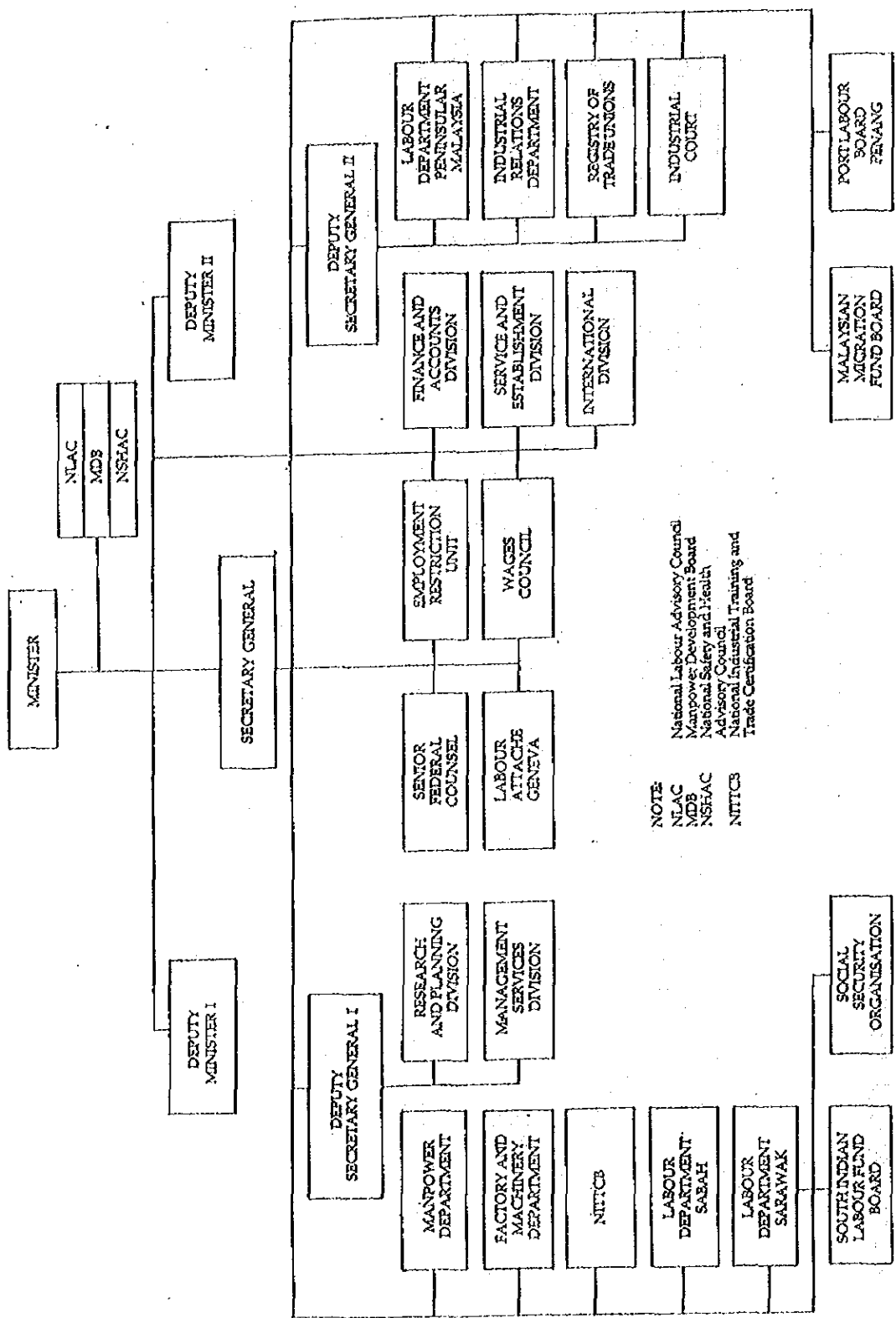


FIGURE 1 - 1
THE ORGANISATIONAL CHART OF THE MINISTRY OF LABOUR

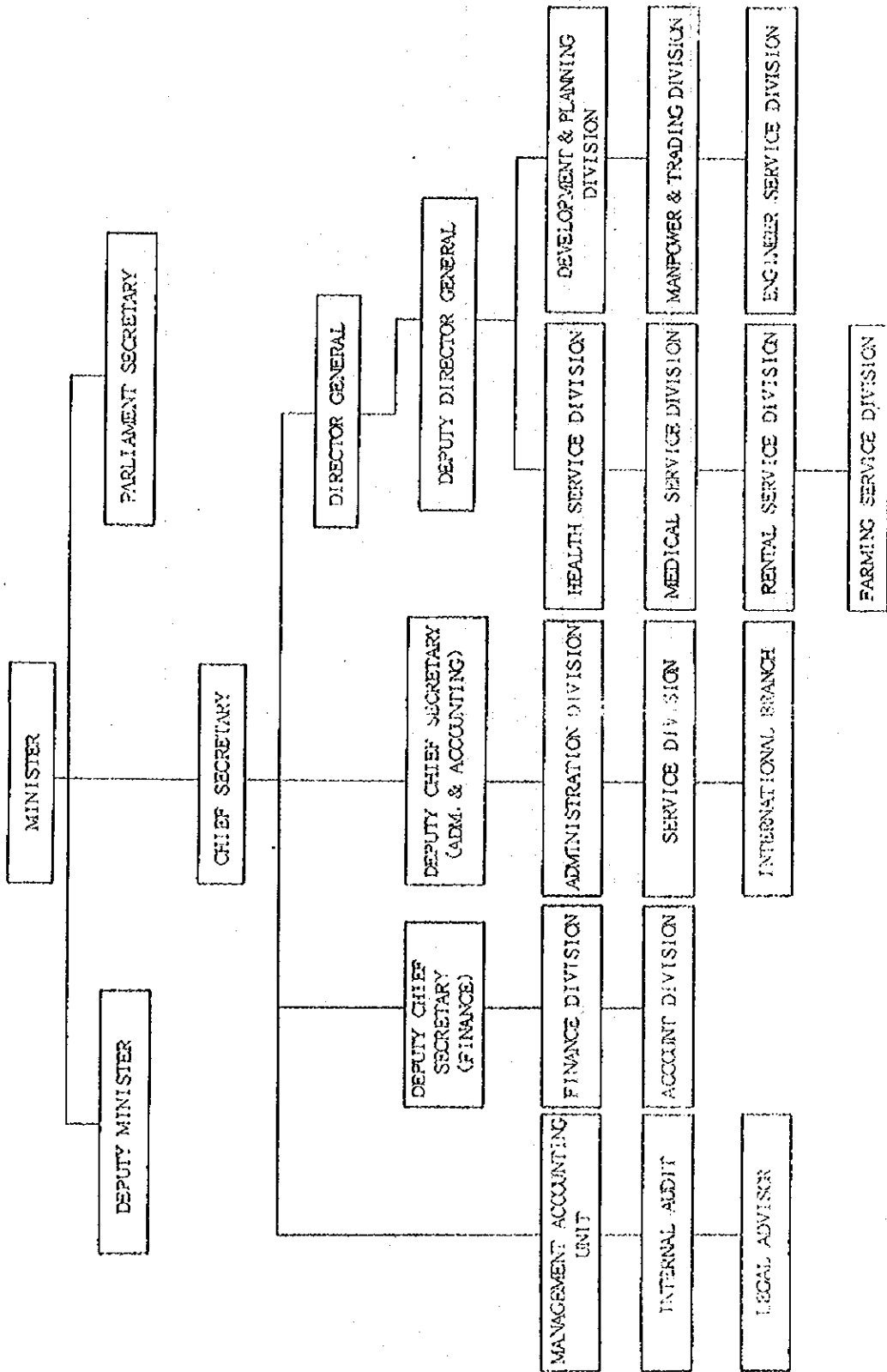


(8) マレーシア保健省組織図

ORGANISATION CHART OF THE MINISTRY OF HEALTH

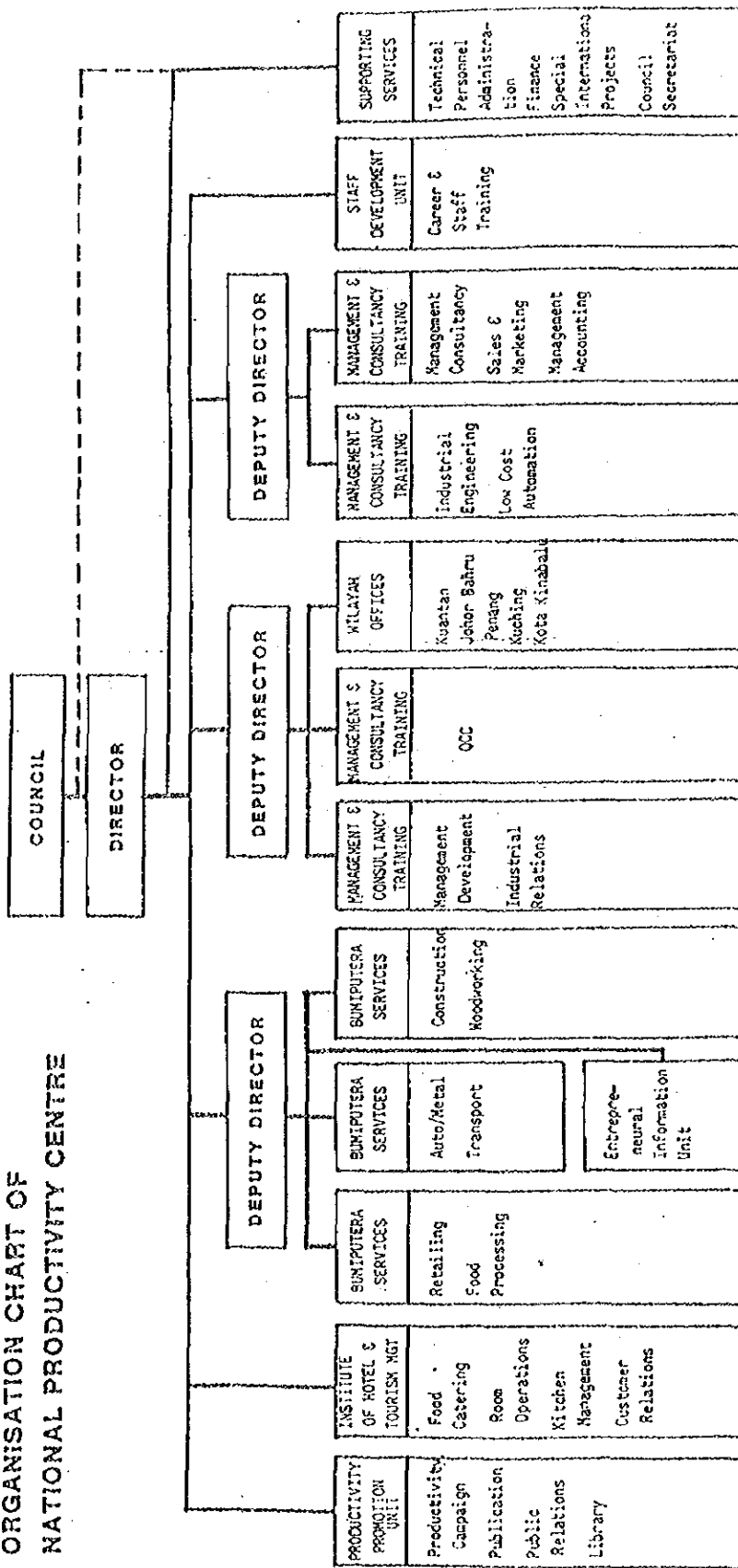
マレーシア

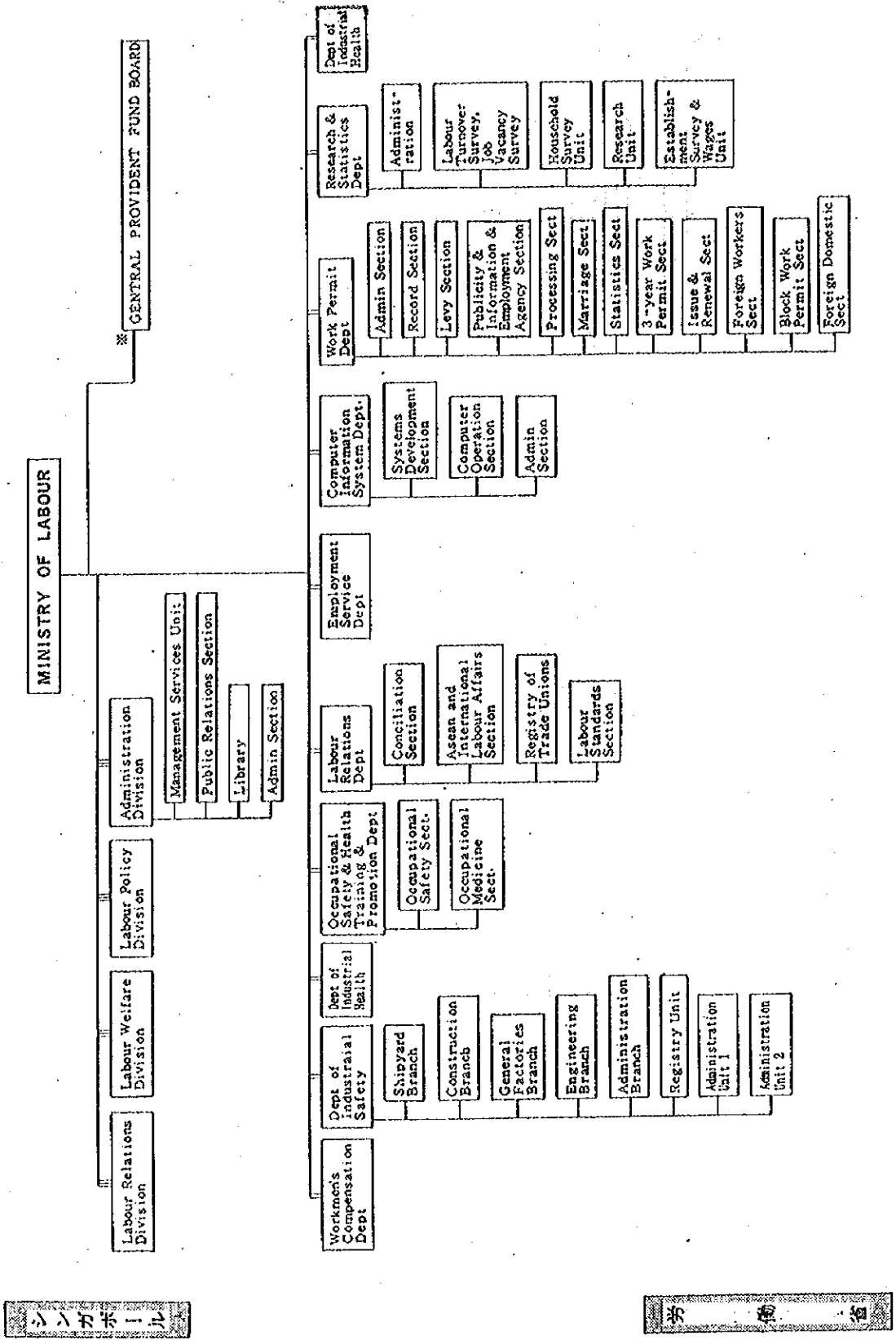
保健省



(9) マレーシア生産性本部組織図

ORGANISATION CHART OF
NATIONAL PRODUCTIVITY CENTRE





シンガポール

労働省

(12) List of Interviewed Persons(PNG)

Mr. James Gissua	Assistant Secretary, Industrial Relations Division, Department of Labour and Employment(DOLE)
※ Mr. Gioctan G. Tanabi	Deputy Secretary, DOLE
Mr. A. K. Joel	Acting Secretary, DOLE
Mr. Ron Silovo	Assistant Secretary, National Employment Service Division, DOLE
Ms. Helen Baloiloi	Principal Staff Development Officer, DOLE
Mr. George Vaso	Assistant Secretary, Labour & Administration, DOLE

※ = Ex-Participant

(13) List of Attendants for Special Lectures (PNG)

Mr. Karo Veu	P. N. G. Panel Lighting Engineer
Mr. A. S. Kini	N C D I C
Mr. Alan B. Kone	Senior Health Inspector Co-ordinator, Occupational Health Programmes
Mr. Nalish Sam	Environment Protection officer, Dept. of Environment
Ms. Betty Amoa	Principal Technical Standards Officer, National Standards Council
Mr. B. Hewitt	Dept. of Environment and Conservation
Mr. Tonny Eliakim	Technical Official, Dept. of Labour and Employment
Mr. Peter Tokome	Principal Labour Officer, Dept. of Labour and Employment
Mr. Dick Nihara	Head of Building and Estate Division, University of P. N. G.
Mr. Eddie Farapo Karaia	Boiler Inspector, Labour Dept.
Mr. Daniel Raisava	Safety Inspector, Dept. of Labour and Employment
Ms. Onike Kimui	Environmental Management Planner, Dept. of Environment and Conservation
Mr. Wesley Lee Saesaria	Safety Officer, University of P. N. G.
Mr. Gan Barn	Industrial Safety Officer, Dept. of Civil Aviation
Mr. Richard Kini	Deputy Chief Health Surveyor, Occupational Health Programmes
Mr. G. Tanabi	Deputy Secretary, Ministry of Labour
Mr. G. Vaso	Assistant Secretary, Labour Administration, Dept. of Labour and Employment
Ms. Helen Baloiloi	Principal Staff Development Officer, Dept. of Labour and Employment

(14) List of Ex-Participants(PNG)

1. Mr. Raula Imani(1976) Died
2. Mr. Tony Eliakim(1982) DOLE, P. O. Box 1035, Lae
3. Mr. Gioktan Giopa Tanabi(1983) Deputy Secretary, DOLE
4. Mr. Peter Tokome(1984) P. O. Box 398, Rabaul
5. Mr. Daniel Kaisava(1987) Technical Branch, Labour Administration DOLE

注 2～5の4名とも面接、アンケートは3を除く3名分回収

(15) List of Interviewed Persons(Malaysia)

1. Mr. Azizan Ayob Deputy Director, Public Services Department (PSD)
19th Floor, Perkim BLDG., Jalan Ipoh
2. Mr. Sugunan Pillay Deputy Director, Engineering Division, Ministry of
Health, Ground Floor, Block "B" Selangor Properties
BLDG., Jalan Dungun
3. Mr. Haji Abdul Jalil Mahmud Director-General, Factories and Machinery Department
(MOL), 10th Floor, Wisma Perdana, Jalan Dungun, Damansara
Heights
4. Mr. Harinder Singh Deputy Director-General, Factories and Machinery
Department (MOL) -- 上に同じ --
5. Mr. Mah Lok Abdullah Assistant Director, National Productivity Center (NPC),
Jalan Sultan, Petaling Jaya
6. Mr. Asnan Pi' i Deputy Secretary-General, (MOL)
1st Floor Block "B", Pusat Bandar Damansara
7. Mr. Lim Sow Khor Joint Managing Director, Malaysian Sheet Glass BHD,
(MSG)
21Km, 47000 Sungai Buluh, Selangor
8. Mr. Rashidan Bin Haji Ahmad Assistant Director, Socso (PERKESO) Aras 2-4, Block A,
Pusat Bandar Damansara, Kuala Lumpur

(16) List of Attendants for Special Lectures(Malaysia)

No.	NAME	ORGANIZATION	POSITION
1	Ir. Harminder Singh	Factories and Machinery Dept. Ministry of Labour	Deputy Director-General
2	Ir. Abdul Rahim Haji Othman	- ditto -	Director of Selangor/ Federal Territory
3	Tuan Syed Muhamed Abdul Fatah	- ditto -	Senior Engineer (Petroleum Safety Section)
4	Mr. Ibrahim Md. Dol	- ditto -	Engineer (Design Section)
5	Mr. Zailee Dollah	- ditto -	Engineer (Design Section)
6	Mr. Omar Piah	- ditto -	Engineer (Petroleum Safety Section)
7	Mr. Ahmad Suhairi Dapat	- ditto -	Engineer (Petroleum Safety Section)
8	Mr. Mustafa Mohd Amin	- ditto -	Assistant Inspector (Selangor/Federal Territory)
9	Mr. Heng Khim Hong	- ditto -	Assistant Inspector (Selangor/Federal Territory)
10	Mr. Jamil Sayati	Factories and Machinery Dept. Ministry of Labour	Engineer (Selangor/Federal Territory)
11	Mr. Abdul Kahar Haji Hussein	- ditto -	Engineer (Selangor/Federal Territory)
12	Mr. Jamaludin Che Hitam	- ditto -	Assistant Inspector (Selangor/Federal Territory)
13	Mr. Hajana Jimudeen Abd. Aziz	- ditto -	Assistant Inspector (Selangor/Federal Territory)
14	Mr. Abu Bakar Md. Din	- ditto -	Assistant Inspector (Selangor/Federal Territory)
15	Mr. Mohamad Yazid Bakar	- ditto -	Assistant Inspector (Selangor/Federal Territory)

No.	NAME	ORGANIZATION	POSITION
16	Ir. Abdul Jalil Mahmud	- ditto -	Director-General
17	Mr. Ludin Embong	- ditto -	Assistant Director (Petroleum Safety)
18	Ir. Johari Basri	- ditto -	- ditto -
19	Mr. Khalid Bin Yaacob	Ministry of Health	Senior Health Inspector
20	Mr. Louis Lee Yoon Sin	- ditto -	- ditto -
21	Mrs. Hajjah Maimunah bte Khalid	- ditto -	Occupational Health Nurse
22	Ir. Sugunan Pillay	- ditto -	Chief Public Health Engineer
23	Mr. Abu Zakle Ahmad	National Productivity Centre	Training & Investigating Officer
24	Ms. Gooi Wan Yegt	Ministry of Science, Technology & Environment	Senior Assistant Director
25	Ir. Zakaria Nanyan	Petroleum Safety Division, Factories & Machinery Dept. (Ministry of Labour)	Director
26	Ir. Ton Jaafar Ton Omar	Factories & Machinery Dept. (Ministry Of Labour)	Director of Penang State
27	Ir. Zainuddin Abdullah	Factories & Machinery Dept. (Ministry Of Labour)	Director of Perak State
28	Mr. Asnan Bin Pi' i	Ministry of Labour (MOL)	Deputy Secretary-General
29	Mr. Haji Abdul Jalil Mahmud	Factories and Machinery Department (MOL)	Director-General

(17) List of EX-Participants(Malaysia)

No.	NAME	YEAR	POSITION, ORGANIZ.	ADDRESS
1	Ir. Chan Mun Chow	1976	Director Of Design Factories & Machinery Dept. (Ministry of Labour)	10th Fl. Wisma Perdana, Jln. Dungun, Damansara Heights, 50534 Kuala Lumpur Tel: 03-2542355
2	Ir. Zakaria Nanyan	1982	Director Petroleum Safety Division, Factories & Machinery Dept. (Ministry of Labour)	1st Fl. Wisma Perdana, Jln. Dungun, Damansara Heights, 50534 Kuala Lumpur Tel: 03-2542355
3	Ir. Ton Jaafar Ton Omar	1985	Director of Penang State Factories & Machinery Dept. (Ministry of Labour)	4th Fl. Bank Negara Building, Lebuh Light, 10534 Penang Tel: 04-620059
4	Ir. Zainuddin Abdullah	1986	Director of Perak State Factories & Machinery Dept. (Ministry of Labour)	Jalan Panglima, Bukit Gantang, 30000 Ipoh, Perak Tel: 05-549711
5	Ir. Daud Sulaiman	1987	Director Factories & Machinery Dept. (Ministry of Labour)	12th Fl. Bangunan Sultan Iskandar, Jalan Simpang Tiga, 93300 Kuching, Sarawak
6	Ir. Ridwan Hj Hussain	1984	Assistant Director Industrial Hygienics Factories & Machinery Dept. (Ministry of Labour)	1st Fl. Wisma Perdana, Jln. Dungun, Damansara Heights, 50534 Kuala Lumpur Tel: 03-2542355
7	Mr. Mah Lok Abdullah	1974	Assistant Director National Productivity Center (NPC)	P. O. BOX 04, Jalan Sultan, 46904 Petaling Jaya, Selangor Darul Ehsan Tel: 03-7557266
8	Dr. R. Mahathevan	1977	Deputy Director Medicine & Health Services Dept. (Ministry of Health)	1st Fl. Federal Bldg. P. O. BOX 11290 88814 Kota Kinabalu, Sabah Tel: 088-56749
9	Mr. Keh Song Hock	1980	Head of Pharmacy, Sector Hospital Ministry of Health	Hospital Besar, Kota Baru, 15586 Kelantan
10	Mr. Pius Premaraj	1981	—	— (不明)

(18) List of Interviewed Persons(Singapore)

1. Mr. Lee Kat Yan Assistant Director, Training Public Service Division,
Ministry of Finance
2. Ms. Yip Geok Kong Executive Officer(Training)
Public Service Division, Ministry of Finance
3. Mr. Harry Wong Head, Department of Industrial Safety(DIS), Ministry
of Labour(MOL)
4. Mr. Tan Pui Guan Head, General Factories Branch & Engineering Branch
(MOL)
5. Mr. Ameeralli Abdeali Section Head, General Factories Branch(DIS)(MOL)
6. Dr. Phoon Wai Hoong Director, Department of Industrial Health(DIH), 3-7
Halifax Rd. 0922
7. Dr. Magdalene Chan Oi Yoke Deputy Director, Department of Industrial Health(DIH)
3-7 Halifax Rd. 0922
8. Mr. Lian You Hin Head, Occupational Safety Section, Occupational Safety
& Health, Training & Promotion Department

(19) List of Attendants for Special Lectures(Singapore)

1. Mr. Harry Wong Head, Construction Branch, Department of Industrial Safety(DIS), Ministry of Labour
2. Mr. Ameerali Abdeali Section Head, General Factories Branch(DIS), (MOL)
3. Mr. Shee Peng Seng Engineer, Construction Branch(DIS)
4. Mr. Ng Tong Leng Section Head, General Factories Branch(DIS)
5. Mr. Go Heng Huat Assistant Executive Engineer, Shipyard Branch(DIS)
6. Dr. Magdalene Chan Oi Yoke Deputy Director, Department of Industrial Health(DIH)
3-7 Halifax Rd. 0922

(20) List of Ex-Participants(Singapore)

<u>NAME</u>		<u>PRESENT POST</u>
Mr Chan Chee Lan	1974	Chief, Industrial Health Inspector, Dept of Industrial Health(DIH), Ministry of Labour(MOL)
Mr Choy Chan Pong	1795	Director, Occupational Safety & Health, Training and Promotion Dept, and Head, Shipyard Branch, Dept of Industrial Safety(DIS), MOL
Mr Ong Kim Liang	1976	Resigned
Mr Harry K C Wong	1977	Head, Construction Branch, DIS, MOL
Mr Ng Tong Leng	1978	Section Head, Engineering Branch, DIS, MOL
Mr Amcerali Abdeali	1979	Section Head, General Factories Branch, DIS, MOL
Mr Leong Shui Hung	1980	Executive Engineer, Engineering Branch, DIS, MOL
Mr Peh Beng Hong	1981	Industrial Health Inspector, DIH, MOL
Dr Magdalene Chan Oi Yoke	1983	Deputy Director, DIH, MOL
Mr Mohd Nasser Mustapha	1984	Asst Executive engineer, Shipyard Branch, DIS, MOL
Mr Go Heng Huat	1985	Asst Executive Engineer, General Factories Branch, DIS, MOL
Mr Low Poh Huat	1988	Executive Engineer, Shipyard Branch, DIS, MOL
Mr Shee Peng Seng	1989	Engineer, Construction Branch, DIS, MOL

(2) 団長挨拶文 (マレーシア)

a. 特別講義における開講のあいさつ

Dec 5th, 1989

Teruo Arakawa

1. Deputy Secretary General of Ministry of Labour, Mr. Asnan Bin Pi'l,
Director-General of Factories & Machinery Department, Tuan Haji Abdul Jalil,
Deputy Director-General of Factories & Machinery Department, Mr. Harminder Singh,
Chief Public Health Engineer, Ministry of Health, Mr. Sugunan Pillay,
First Secretary of Embassy of Japan, Mr. Shigeshi Mimura,
Assistant Resident Representative of JICA Malaysia Office, Mr. Yasuo Sakai
Distinguished guests, ladies and gentlemen:
2. It is my great pleasure to give a lecture on industrial safety and health in Japan and discuss with you.
3. First of all, I would like to pay my respects to Mr. Harminder Singh and other staffs who made efforts to arrange this seminar and meeting with ex-participants on Industrial Safety and Health and also meeting with persons concerned.
4. A few days ago I know a ceremony was performed. The Prime Minister, Datuk Seri Dr. Mahathir Mohamad attended and congratulated the role out ceremony of the 150,000 th Proton car for the local market and the 10,000 th car for the United Kingdom market.
5. I'm sure the ceremony is a symbol of you country's real industrialization. Because in Japan I have observed several car makers and car-components makers, so I fully understand it is necessary for a car maker to employ good designers, planners, organizers and many workers who have been trained well, and it is also necessary to have many components makers who supply various high quality and low cost components just in time.
6. In Japan, at the stage of rapid industrialisation of these three decades, we have tasted a lot of bitter experience such as frequent occurrence of industrial accidents or occupational diseases and appearance of environmental pollution. Nothing is more heartbreaking than seeing the workers get hurt at work place, because it should be the place to make their life happy.

7. I believe at the stage of industrialization, it is very important to promote industrial safety and health activities of government, companies and associations concerned like MSIS, Malaysian Society for Industrial Safety, in other words, industrialization with ensuring safety and health is required. In Japan cases of industrial accident have been decreased considerably these two decades.

However, we have the various kind of problems, for example, increase of death cases, high frequency rate for small-size-enterprises, introduction of new technology. So we have analyzed these problems; planned and promoted their counter-measures.

8. I'm sure all attendants here have the same target. The target is realization of 'Zero Accident' in each enterprises and remarkable reduction in total number of industrial accidents in your country and our country as the result of zero accident promotion.

I think between your country and our country there is some difference of circumstances on industrial safety and health, but I also think exchange of mutual experience and opinion is useful for each other.

9. I sincerely hope that this seminar will be fruitful and our friendly relation will be deepened.

Thank you.

b. 特別講義における閉講のあいさつ

Dec. 5th 1989

Teruo Arakawa

1. Ladies and Gentleman:

Thank you for your kind attention on our lectures.

2. We gave two lectures on latest situation of industrial safety and health in Japan. I talked about governmental activities, Mr. Kinoshita talked about private sectors' activities and we discussed on the situation.

3. I'd like to think that the seminar was fruitful for each other and it was useful to deepen our friendly relations.

4. Now it is the time to close the seminar, but our relation will not be closed.

Because all of us will be always colleagues so long as we work on the field of industrial safety and health, I hope we would like to be able to maintain useful contacts with each other and let's try to make efforts to raise the level of industrial safety and health in both countries.

5. I sincerely hope that our friendly relation will continue and your activities for safety and health will be developed more and more.

Thank you.

JICA